―社会教育施設の尊重を市政に望む―

~~多摩市長選挙・市議会議員補欠選挙 立候補予定者との対話集会~~

改め※ 仮想「立候補予定者」との 市民「対話集会」

立候補予定者以外の方ならどなたでも参加できます！



※お詫び この企画は当初、立候補予定者を迎えての対話集会としてご案内しておりましたが、3 月29 日現在、多摩市長選挙に立候補を表明されている方が1名のため、市長選挙立候補予定者との対話集会ができなくなりました。 また、多摩市議会議員補欠選挙に立候補を表明されている方は2名ですが、そのうちのお一人からご都合で参加できないとのご連絡をいただきました。そこで、こちらも対話集会ができなくなりました。立候補予定者がお一人だけ参加の場合、選挙のための「事前運動」と疑われる恐れがあるからです。そこで私たちは、この大事な地方選挙の機会を活かして、新たに、類似の企画を考えました。当日は、この間の経緯、公職選挙法等のことも説明します。みなさま、是非、この新企画の討議に積極的にご参加ください。立候補予定者の方々には、この新企画に一参加者としてもご参加いただけませんが、私たちの討議結果は、立候補予定者のみなさんに、私たちからの「お願い」としてお伝えします。

※新企画の概要 立候補予定者にむけて作成したアンケートに、私たち自身が回答しながら討議し、立候補予定者に伝えたい意見としてまとめます。討議の成果は、立候補予定者にお伝えします。

日　　時　2018年3月31日(土) 18時30分～20時30分（18 時開場）
会　　場　多摩市立永山公民館ホール（ベルブホール）
参 加 費　300 円(資料代)
プログラム

はじめに 企画内容変更についての説明―公職選挙法関連条文ほか
集会の趣旨―多摩市の社会教育施策、社会教育施設に対する私たちの思い
第 1 部 グループに分かれてアンケートへの回答をまとめる。
第 2 部 グループごとの発表
まとめ

主催　多摩市の社会教育を考える会

代表　荒井容子
会員　大橋慶一（豊ヶ丘複合館存続の会所属）、齊藤仁（東寺方複合館存続を考える会所属）
厚芝麗子（聖ヶ丘図書館の存続を考える会所属）、中江智明（唐木田図書館の存続を考える会所属）
青木洋子　（多摩市に中央図書館をつくる会所属）　ほか多数

問い合わせ

荒井容子（代表）（yarai@hosei.ac.jp）、　安室君子（tel/fax 042-373-8258）

集会の趣旨

現在の多摩市の社会教育施策の問題－社会教育施設の不合理な大幅削減

2013（平成 25）年 11 月、多摩市では「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を掲げ、地域図書館、公民館、児童館等の削減を打ち出しました。廃止（不合理な移転）を提案された施設がある地域では、廃止（移転）に反対する運動へと展開しました。こうしたそれぞれの地域での思いがつながり、2014（平成 26）年 12 月に、私たち「多摩市の社会教育を考える会」が生まれました。

多摩市の歴史の中で育まれてきた社会教育施設―専門性、地域配置の重視

会合を重ねるなかで、**地域図書館、児童館**等が、それぞれの地域でいかに大事に、日々の生活に活かされてきたかを、互いに知ることになりました。また、**公民館**は単なる貸し部屋ではなく、図書館は単なる本の受け渡し場でも単なる読書ロビーでもないこと、それらの社会教育施設には、市民の学びを支えるために必要な専門的な機能があり、これを担う職員がいることも確認してきました。この確認をもとに「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」（2013（平成 25）年）をみると、単なる床面積等の数合わせで削減するという安易さがありました。さいわい 2016（平成 28）年 11 月の「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の更新では、地域図書館の削減廃止見直しを求める多くの市民の声もあり、「図書館本館の整備に合わせて地域館は廃止する」としていた案は変更となりましたが、「本館の再構築とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、施設の大規模改修の時期までに市民と対話を行いながら、地域のニーズの把握と対応策の検討を続けます」とし、地域館の削減がなくなったわけではありません。

市民みんなの知恵を集めて、社会教育施設のあり方を考えていくべきです。

市財政の厳しさが強調されていますが、その中でどのようなやりくりをして公共施設の体系をつくるかは、それぞれの施設が設置されてきた意味を踏まえて、市民とともに検討していくべきです。図書館･公民館をはじめとした社会教育施設についても、社会教育施設の価値を深くとらえている市民、日常的にその価値を感じとっている市民の知恵を集めて、施設配置計画を考えていくべきです。また、蓄積されてきた社会教育の思想と方法を専門的に身につけ、市民とともに学びあっていく姿勢をもった職員を配置した、質の高い社会教育施設が、地域に丁寧に配置される必要があります。これは、市民が深く考え、学びあい、表現し、いきいきと生きていける地域社会をつくる合理的な施策です。また他の社会教育施設も同様ですが、特に図書館の新本館が生まれるにあたり、地域館から市の職員を引き上げ、運営を民間に委託する等のことはあってはならないことです。

"仮想「立候補予定者」との模擬「対話集会」"の成果を立候補予定者のみなさんにお伝えします。

多摩市の行政と議会は、市民の要求や意見を受けとめ、市政と市民との対話を育み、刺激する場であってほしいと思います。残念ながら、今回、立候補予定者が現段階では「対話集会」を行うに相応しい人数にならず、参加を表明しくださっていた立候補予定者のみなさまに、参加自体をご遠慮いただかなければならなくなってしまいました。

しかし、この“仮想「立候補予定者」との市民「対話集会」”の成果は、立候補予定者のみなさんにお伝えします。また公開します。立候補予定のみなさん、現職の市議のみなさん、市の職員のみなさん、多くの市民のみなさんに受けとめていただき、 多摩市の社会教育の豊かな発展のために役立てていただければと思っています。

多摩市の社会教育をよりよくするために、大勢の市民のみなさまといっしょに、 この対話集会を行いたいと願っています。

お詫びとご案内

この度実施を予定しておりました「多摩市長選挙・多摩市議会議員補欠選挙」立候補予定者との「対話集会」は、立候補予定者が両選挙とも、昨日の段階でお一人ずつしかこの集会への参加を表明されていません。これでは公職選挙法に抵触する恐れがあるため、この度の催しを末尾のタイトルの通り変更させていただきました。

せっかく足をお運びくださったのに申し訳ございません。

よろしければ、是非この新しい企画の方にご参加ください。

社会教育施設を守り、発展させるため、是非いっしょに、英知を集め、大切な知と学びの場をアピールしましょう。

皆さまの切実なお声は、「集会」の成果として、立候補予定者にお届けします。

仮想「立候補予定者」との市民「対話集会」

2018 年 3 月 31 日

多摩市の社会教育を考える会

（立候補予定者以外の人は誰でも参加できます）

資料　公職選挙法　1950 年制定（1950 年 5 月 1 日施行）（最終改正 2017 年 6 月―7 月 16 日施行）**抜粋**

★「事前活動」の禁止に関連する条文

（選挙運動の期間）

第百二十九条　選挙運動は、各選挙につき、それぞれ第八十六条第一項から第三項まで若しくは第八項の規定による候補者の届出、第八十六条の二第一項の規定による衆議院名簿の届出、第八十六条の三第一項の規定による参議院名簿の届出（同条第二項において準用する第八十六条の二第九項前段の規定による届出に係る候補者については、当該届出）又は第八十六条の四第一項、第二項、第五項、第六項若しくは第八項の規定による公職の候補者の届出のあつた日から当該選挙の期日の前日までででなければ、することができない。

（他の演説会の禁止）

第百六十四条の三　選挙運動のためにする演説会は、この法律の規定により行う個人演説会、政党演説会及び政党等演説会を除くほか、いかなる名義をもつてするを問わず、開催することができない。

２　公職の候補者以外の者が二人以上の公職の候補者の合同演説会を開催すること、候補者届出政党以外の者が二以上の候補者届出政党の合同演説会を開催すること及び衆議院名簿届出政党等以外の者が二以上の衆議院名簿届出政党等の合同演説会を開催することは、前項に規定する禁止行為に該当するものとみなす。

★アンケートの回答の取り扱い方法に関連する条文－選挙前・選挙中の公表は難しい

（新聞紙、雑誌の報道及び評論等の自由）

第百四十八条　この法律に定めるところの選挙運動の制限に関する規定（第百三十八条の三の規定を除く。）は、新聞紙（これに類する通信類を含む。以下同じ。）又は雑誌が、選挙に関し、報道及び評論を掲載するの自由を妨げるものではない。但し、虚偽の事項を記載し又は事実を歪曲して記載する等表現の自由を濫用して選挙の公正を害してはならない。

２　新聞紙又は雑誌の販売を業とする者は、前項に規定する新聞紙又は雑誌を、通常の方法（選挙運動の期間中及び選挙の当日において、定期購読者以外の者に対して頒布する新聞紙又は雑誌については、有償でする場合に限る。）で頒布し又は都道府県の選挙管理委員会の指定する場所に掲示することができる。

３　前二項の規定の適用について新聞紙又は雑誌とは、選挙運動の期間中及び選挙の当日に限り、次に掲げるものをいう。ただし、点字新聞紙については、第一号ロの規定（同号ハ及び第二号中第一号ロに係る部分を含む。）は、適用しない。

一　次の条件を具備する新聞紙又は雑誌

イ　新聞紙にあつては毎月三回以上、雑誌にあつては毎月一回以上、号を逐つて定期に有償頒布するものであること。

ロ　第三種郵便物の承認のあるものであること。

ハ　当該選挙の選挙期日の公示又は告示の日前一年（時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙にあつては、六月）以来、イ及びロに該当し、引き続き発行するものであること。

二　前号に該当する新聞紙又は雑誌を発行する者が発行する新聞紙又は雑誌で同号イ及びロの条件を具備するもの

Cf.公職選挙法の構成（目次）

第一章　総則（第一条―第八条）**第二章**　選挙権及び被選挙権（第九条―第十一条の二）
第三章　選挙に関する区域（第十二条―第十八条）
第四章　選挙人名簿（第十九条―第三十条）**第四章の二**　在外選挙人名簿（第三十条の二―第三十条の十六）
第五章 選挙期日（第三十一条―第三十四条の二）**第六章** 投票（第三十五条―第六十条）
第七章 開票（第六十一条―第七十四条）**第八章** 選挙会及び選挙分会（第七十五条―第八十五条）
第九章 公職の候補者（第八十六条―第九十四条）**第十章** 当選人（第九十五条―第百八条）
第十一章 特別選挙（第百九条―第百十八条）
第十二章 選挙を同時に行うための特例（第百十九条―第百二十八条）
第十三章 選挙運動（第百二十九条―第百七十八条の三）
第十四章 選挙運動に関する収入及び支出並びに寄附（第百七十九条―第二百一条）
第十四章の二 参議院（選挙区選出）議員の選挙の特例（第二百一条の二―第二百一条の四）
第十四章の三 政党その他の政治団体等の選挙における政治活動（第二百一条の五―第二百一条の十五）
第十五章 争訟（第二百二条―第二百二十条）第十六章 罰則（第二百二十一条―第二百五十五条の四）
第十七章 補則（第二百五十六条―第二百七十五条）**附則**

４団体と社会教育を考える会
そして市民の運動

経過報告



多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム

～少子化・超高齢社会に向けた持続可能なまちづくりのために～

2013年11月



平成25年11月

多摩市

多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム

図書館

7館 → 3館

廃止

唐木田図書館（未定）
聖ヶ丘図書館（未定）
豊ヶ丘図書館（34年度）
東寺方図書館（29年度）



市長への質問状提出

【市回答】

公共施設は更新時期を確実に迎えていくことから個別施設の取組も着実に進めていく必要があります。同プログラムにおいてお示ししている個別施設の取組は確定したものではなく、市民の皆さんとの意見交換等を通じてより良い案があれば軌道修正していきます。市民の皆さんに丁寧に説明し、意見交換を重ねていく考えです。

4団体合計15，000筆以上の署名

- 「東寺方複合館の存続を考える会」
  (署名5,030筆)+2,004筆
- 「豊ヶ丘複合館存続の会」
  (署名 3 ,673筆)
- 「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」
  (署名4,787筆)
- 「唐木田図書館の存続を考える会」
  (署名1,674筆) +756筆

自治推進委員会が市長へ意見
8月31日

1　行政の情報伝達の方法や開示方法については、市民にその内容が分かりやすく伝わるよう、さらに工夫していただきたい。

2　市が行政計画等を策定する際には、そのプロセスに多様な市民の意見が反映されるよう、より一層の工夫していただきたい。

3　市民主体の自治の推進の立場から、新しい方向性と文化的価値を創造する工夫に向けて、参加と協働の場づくりに努力していただきたい。

多摩市議会議員との懇談会

2015年10月21日 市議15名参加



市議会各会派との懇談

2015年11月4日～13日

- １１月　４日　改革みらい（7名）
- １１月　９日　生活者・ネット（3名）
- １１月１２日　自民党・新生会（3名）
- １１月１２日　公明党（5名）
- １１月１３日　日本共産党（5名）

合計23名の議員と懇談

多摩市の政策情報誌vol.1～2（15.8～16.3）

vol. 1

みんなで考えよう
公共施設の見直しと将来像
持続可能な多摩市の未来に向けた挑戦



©多摩市

取り組みが始まっている「公共施設の見直し方針と行動プログラム」（平成 26 ～ 35 年度）について、あらためてご説明します

ページ

1. 公共施設の更新は大きな課題 …… 2
2. これまでの取り組み　3. 公共施設の見直し「3つの目的」 …… 3
4. 主な公共施設の見直し（案） …… 4
5. 公共施設の見直し Q&A …… 6
6. 新しい取り組み …… 7
7. これからの進め方 …… 8

多摩市

平成27年8月発行

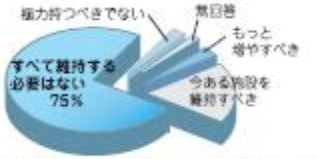


劇的に変化する、多摩市を取り巻く社会経済状況



少子化・高齢化が進むと、増えていく医療や介護等にかかる費用に税収が追いつかず、収支のバランスが保てなくなります。今後、公共施設にかけられるお金は、確実に減っていきます。

多くの方が気づいている、全ての施設を維持できないことを



多摩市公共施設の見直しについてのアンケート調査
（平成27年9月実施）
無作為抽出による16歳以上の市内在住600人対象（回収率26.8%）

公共施設の見直し3つの目的

1 安全に使い続ける

2 施設全体のダイエット

3 時代のニーズに合わせた施設への機能転換

施設総量を見直し、新たなニーズに対応できるまちへ

「タウンニュース」2016/6/9

図書館存続へPR

4団体が情報紙制作

地域図書館の存続を求め、市内で活動を行っている「豊ヶ丘複合館存続の会」「東寺方複合館の存続を考える会」「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」「唐木田図書館の存続を考える会」の4団体がこのほど、情報紙『わたしたちの図書館をなくさないで』を共同で制作。現在、市内各所で配布を行っている。



各地区の「存続を考える会」メンバーで制作

現在、多摩市は「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の取り組みを進める中で、7カ所にある地域図書館を3館に集約するという方向性を示している。一方で、豊ヶ丘、東寺方、聖ヶ丘、唐木田の4地区では、それぞれ地域住民や自治会などで「存続を考える会」を発足し、市議会への陳情や、市長、市議、教育委員会と懇談を行うなどの活動を行ってきた。

「実態を広く知って」

今回、制作した情報紙は、市が昨年8月と今年3月に発行した「政策情報誌」に、図書館に関わる問題点が書かれていないこと、これまでの会の活動や市民の声が反映されていないことから、より多くの市民に実態を知ってもらおうと、4団体が共同で出資し2万部を制作。地域図書館を含む「身近な公共施設の存続」を願う1万5千筆を超える陳情・要請署名があがっているにも関わらず具体的な提案がないことや、パルテノン多摩の大規模改修や新市庁舎建設構想を例に、市が持ち出す財源難への疑問等が書かれている。

4団体は「公共施設の見直しは『市民の声を聴きながら』と言い、市の自治基本条例にも『市民の意思に基づき』とあるにも関わらず、市民の声が反映されているとは思えない。この情報紙を読んで、実態を多くの市民に知ってもらいたい」と話す。今夏には『公共施設の見直し』の更新が予定されている。「素案に我々の声が反映されていなければ、情報誌の第2弾やもっと違う形での行動を起こしていきたい」と話している。

市民情報紙No. 1（2016.5）

全て市民の

カンパで作成



図書館 7館から3館に!?

わたしたちの 図書館を なくさないで





図書館は地域のたからもの

多くの市民が利用

個人貸出冊数・・・第2位
予約受付・・・・第1位
（全国同規模の市町村で）

ほんとうに財政難なの？

パルテノン多摩大規模改修 72~82億円

地域図書館4館の維持費
年間 1億5千万円

地域館の存続求める署名 1万5000筆

議会は陳情を採択、趣旨採択

多摩市民による 市民の情報紙 No.1 2016年5月発行

多摩市は市民の声を尊重して

大切な地域の公共施設の存続を求めて活動しています。

豊ヶ丘複合館存続の会　東寺方複合館の存続を考える会
聖ヶ丘図書館の存続を考える会　唐木田図書館の存続を考える会

編集・発行は4団体共同

「市民情報紙」発行のための募金を募ります。名義：多摩市の地域図書館の存続を願う会　代表者 厚芝麗子
ゆうちょ銀行　10190−80311811　他行から振り込む場合、店番 018-80311811

地域図書館はなくては ならないもの くらしに根づいています



近くにあるから助かってます



子どもも私も図書館が大好き！！

（平成26年度）

地域図書館	貸出者数	貸出冊数	運営費(含む人件費)
聖ヶ丘図書館	40,998人	106,611冊	4,820万円
東寺方図書館	32,536人	92,342冊	2,238万円
豊ヶ丘図書館	61,474人	164,180冊	4,403万円
唐木田図書館	48,671人	127,218冊	4,130万円
計	183,679人	490,351冊	1億5,591万円

数値は多摩市施設白書（H28年発行）

多摩市の政策情報誌vol.3～4（16.7～16.12）

公共施設の見直しと将来像

みんなで考えよう

多摩市 政策情報誌 vol.3（平成28年7月発行）

持続可能な多摩市の未来に向けた挑戦



平成25年11月の「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の策定以降、市民の皆さんと対話を重ねながら、持続可能なまちに向けて、施設総量を見直しています。

このたび、これまでの取り組み状況や社会状況の変化を踏まえ、行動プログラムの更新案を作成しました。本案をもとに、市民の皆さんのご意見をうかがい、更新を行います。

市民の皆さんのご意見を募集します

▼市民説明会の開催

行動プログラムの更新案についての説明と、市民の皆さんとの意見交換を行う場として、市民説明会を開催します。

▼市民説明会の日時・場所等

日程（平成28年）	時間	会場	定員
7月23日（土）	10:00～12:00	関戸公民館　8階　大会議室	90人
8月5日（金）	19:00～21:00	永山公民館　5階　ベルブホール	100人
8月6日（土）	14:00～16:00	パルテノン多摩　4階　第一会議室	90人



※申込み不要です。当日

パブリッ

1 / 5

公共施設の見直しと将来像

みんなで考えよう

多摩市 政策情報誌 vol.4（平成28年12月発行）

特集　多摩センター活性化とパルテノン多摩



目次

「公共施設の見直し方針と行動プログラム」を更新しました！ …… 2～3ページ

特集　多摩センター活性化とパルテノン多摩

多摩センターはこう変わる！ …… 4～5ページ

パルテノン多摩を改修します …… 6～8ページ

市民に愛される「パルテノン多摩」をめざして　～行動プログラムを更新しました～

本年11月、「公共施設の見直し方針と行動プログラム」を更新しました。市民の皆さんとの対話を重ね、コミュニティセンター内の地域図書館など身近な施設は残しつつ、次世代への負担を極力減らしていく創意と工夫をこらしていくこととしています。

今号では「パルテノン多摩」の大規模改修への対応と、百貨店の営業終了などでご心配の多い多摩センター地区の現時点での市としての将来構想イメージを紹介します。

あわせて皆さんからご質問をいただく事業費の財源についてですが、今回の大規模改修は、ほぼ都市計画税により賄うこととしています。この税は目的税であり、待機児対策や地域包括ケアなどには使うことのできない税であり、なおかつこれまでは施設のリニューアルには使えない財源でした。

多摩市では、国に使途の拡大を強く求め、平成28年に国土交通省の指針が改定され、都市計画決定されている施設である「パルテノン多摩」にも都市計画税を適用できるようになったものです。

改修後は、市民の皆さんの憩いの場として、芸術・文化そして多摩地域の情報発信・地域文化の拠点として運営方法・内容を市民の皆さんと協議し、私たち市民にとってなくてはならない「パルテノン多摩」としていきたいと考えております。



市民の皆さまのご理解と更なるご協力を
よろしくお願い申し上げます。

多摩市長　阿部　裕行

豊ケ丘複合施設

●地域に必要な機能についての検討

当初、大規模改修時期である平成34年度に建物を廃止する方向性を示していましたが、施設の存続を求める陳情が議会で採択されたことから、一旦立ち止まり、大規模改修時期の前までに、市民の皆さんと一緒に考えていきます。

建物内の各施設についても、地域に必要な機能とその機能の確保策等について検討していきます。

東寺方複合施設

●地域に必要な機能についての検討

当初、平成29年度に建物を廃止する方向性を示していました。しかし、和田・東寺方周辺地域コミュニティセンターの整備や和田・東寺方・愛宕地域の都営住宅の建替え等、今後周辺環境が大きく変化し、それにより施設の利用の仕方や人の流れも変わっていくことが想定されることから、一旦立ち止まり、平成35年度の大規模改修時期の前までに、市民の皆さんと一緒に考えていきます。

建物内の各施設についても、その間の環境変化を考慮しながら、地域に必要な機能とその機能の確保策等について検討していきます。なお、東寺方学童クラブは当初の予定どおり、多摩第二小学校敷地内に移転します。

ひじり館・からきだ菖蒲館

●図書館サービスの継続と居場所や相談機能等の検討

当初、聖ヶ丘及び唐木田図書館については、図書館本館の整備に合わせて廃止する方向性を示していましたが、図書館全体の仕組みを見直す中で必要な図書館サービスを精査しながら残していきます。

あわせて、市民ワークショップで地域に必要な機能・サービスとしてご意見をいただいた、高齢者の居場所や相談機能等として、地域包括支援センター等の併設を検討します。

なお、聖ヶ丘学童クラブは現行のまま、唐木田児童館は地域子育て支援拠点として存続します。

市民情報紙No. 2（16.11）

「施設の配置や機能の転換」ってなに？
まだまだ大きい行政とのギャップ

行政の提案

聖ヶ丘図書館・唐木田図書館

・図書館全体の仕組みを見直す中で必要な図書館サービスを精査しながら残していきます。
・高齢者の居場所や相談機能等として、地域包括支援センター等の併設を検討します。

私たちの懸念・要望

今後ますます大切さを増す地域包括支援センターを、地域館の蔵書の一部を本館に集中させ、空いたスペースに設置で、ほんとうに地域住民の暮らしに役立つのか、ひろく市民の意見を聞くべきではないでしょうか。

豊ヶ丘図書館、東寺方図書館

それぞれ6年後と7年後の大規模改修の時期まで市民と対話を行いながら検討を続ける。

図書館・複合館の存続を明確に打ち出すべきです。サービスの内容や運営体制は市民の声を生かすべきです。

多摩市は「市民と話し合って」というが…

大切な施設を守るために私たちの声を届けることがますます重要に！



多摩市の最高規範の自治基本条例にもとづき、地域図書館・複合館を残したいという市民の意思を受け止めてください。



地域図書館・複合館存続へ——これまでの経過

平成25年　11月に「公共施設の見直し方針と行動プログラム」が策定される。図書館本館の整備にあわせ、唐木田・聖ヶ丘図書館の廃止、東寺方図書館は（仮称）和田・東寺方コミュニティセンターの建設に合わせて、東寺方複合施設とともに廃止されることが示される。豊ヶ丘複合施設は平成34年度に建物を廃止することが示される。

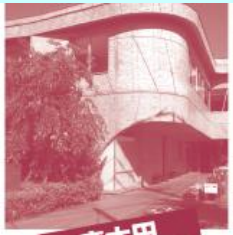
平成25年　「豊ヶ丘複合館存続の会」が結成される。

平成26年　「東寺方複合館の存続を考える会」、「唐木田図書館の存続を考える会」、「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」が結成される。

平成28年　5月、市民情報紙NO.1発行、11月にNO.2を発行。

連絡先	豊ヶ丘複合館存続の会	東寺方複合館の存続を考える会	聖ヶ丘図書館の存続を考える会	唐木田図書館の存続を考える会
	代表　大橋 隼一 042-202-0246 yoshi@ohashi.name	代表　齊藤 仁 042-373-8594 terakatasonzoku@yahoo.co.jp	代表代行　厚芝 麗子 042-376-9624 r_atsushiba@hotmail.com	代表　中江 智明 042-371-3085 nakae_0912@yahoo.co.jp

「市民情報紙」発行のための募金を募ります。名義：多摩市の地域図書館の存続を願う会　代表者 厚芝麗子
ゆうちょ銀行　10190−80311811　他行から振り込む場合、店番 018- 普通 8031181









わたしたちの願いが市にとどき

地域図書館廃止から「存続」へ



多摩市は、この７～８月に【公共施設の見直し方針と行動プログラム・更新案】の市民説明会を、市内三ヶ所で実施。その後、８/31市内４か所での「地域説明会」が開催され、その中で、「地域図書館の存続」を確認する重要なやり取りが交わされました。地域図書館の存続を願うわたしたちの声を継続して届けていくことが大事です。

図書館本館は何としても更新したい。本館再構築基本構想策定委員会で、図書館全体のシステムを検討する中で、本館だけでなく地域館も併せた検討を進めている。（各地域説明会での市側の発言）

聖ヶ丘図書館
「何とか存続させて行こうと内部検討している」（8/31）

からきだ図書館
「市としてはコミセン内に図書館は残し、プラスアルファとして地域サービスという観点で高齢者の居場所や相談機能等を考えている。図書館本館と地域館との役割分担を考えるタイミングでどういった機能を付加していくかを考えたい」（10/5）

東寺方複合施設の図書館
「大型改修予定のＨ３５年までは現状通り存続。その数年前から市民の皆さんと一緒に考えていく。図書館本館建て替えに併せ、地域館との関係も検討をする。」（10/13）

豊ヶ丘複合施設の図書館
H34年度に大規模改修する予定。その数年前から図書館本館基本構想の目途（全体の姿）が見えてくる中で、周辺環境の状況変化も見極めながら検討して行きたい。（10/22）

多摩市民による
市民の情報紙
No.2
2016年11月発行

これからも図書館のあり方を考えよう

大切な地域の公共施設の存続を求めて活動しています。

豊ヶ丘複合館存続の会　東寺方複合館の存続を考える会
聖ヶ丘図書館の存続を考える会　唐木田図書館の存続を考える会

編集・発行は４団体共同

唐木田図書館

【建築年月(からきだ菖蒲館) ： 平成23年2月】　【延床面積 ： 577㎡／2,602㎡】

今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H28年11月更新	検討	―	―	現状どおり存続し、本館の整備とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、必要なサービス内容や運営体制について検討していきます。

H28年度以降の取組みスケジュール

年度	H26(実績)	H27(実績)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
取組み内容			新たな本館との役割分担を含めたサービス内容等の検討							

H25年度策定時の今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H25年11月当初	廃止	―	未定	本館の整備に合わせ、施設を廃止します。 廃止後は、コミュニティセンター内に、図書館資料の予約の申し込み、貸出、返却ができる機能を設置します。 民間委託による施設管理の一元化の導入を検討します。(H29年度以降) 空きスペースについては、図書や情報拠点をサポートする民間NPO法人への委託等、民間への賃貸を含めた活用を検討します。

聖ケ丘図書館

【建築年月(ひじり館) ： 平成7年7月】　【延床面積 ： 842㎡／2,519㎡】

今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H28年11月更新	検討	―	―	現状どおり存続し、本館の整備とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、必要なサービス内容や運営体制について検討していきます。

H28年度以降の取組みスケジュール

年度	H26(実績)	H27(実績)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
取組み内容			新たな本館との役割分担を含めたサービス内容等の検討							

H25年度策定時の今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H25年11月当初	廃止	―	未定	本館の整備に合わせ、施設を廃止します。 廃止後は、コミュニティセンター内に、図書館資料の予約の申し込み、貸出、返却ができる機能を設置します。 民間委託による施設管理の一元化の導入を検討します。(H29年度以降) 空きスペースについては、図書や情報拠点をサポートする民間NPO法人への委託等、民間への賃貸を含めた活用を検討します。

東寺方図書館

【建築年月(東寺方複合施設) ： 昭和56年4月】　【延床面積 ： 551㎡／1,637㎡】

今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H28年11月更新	検討	未定	未定	当面現状どおり存続し、本館の再構築とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、施設の大規模改修の時期までに、市民と対話を行いながら、地域のニーズの把握と対応策の検討を続けます。

H28年度以降の取組みスケジュール

年度	H26(実績)	H27(実績)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
取組み内容			新たな本館との役割分担を含めたサービス内容等の検討							

H25年度策定時の今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H25年11月当初	廃止	—	29	（仮称）和田・東寺方コミュニティセンターの建設時期に合わせて、施設を廃止します。 なお、多摩第二小学校内に図書館資料の予約の申し込み、貸出、返却ができる機能を設置します。

豊ケ丘図書館

【建築年月(豊ケ丘複合施設) ： 昭和54年4月】　【延床面積 ： 508㎡／1,549㎡】

今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H28年11月更新	検討	未定	未定	当面現状どおり存続し、本館の再構築とあわせて、図書館全体の仕組みを見直していく中で、施設の大規模改修の時期までに、市民と対話を行いながら、地域のニーズの把握と対応策の検討を続けます。

H28年度以降の取組みスケジュール

年度	H26(実績)	H27(実績)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
取組み内容			新たな本館との役割分担を含めたサービス内容等の検討							

H25年度策定時の今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H25年11月当初	廃止	—	34	本館の整備に合わせ、施設を廃止します。 廃止後は、コミュニティセンターまたは青陵中学校内に、図書館資料の予約の申し込み、貸出、返却ができる機能を設置します。 民間委託による施設管理の一元化の導入を検討します。(H29年度以降)

関戸公民館

【建築年月(ヴィータ・コミューネ) ： 平成11年9月】 【延床面積 ： 4,379㎡／5,047㎡】

今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H28年11月更新	統合の上、存続	永山公民館	未定	移転・統合に向けた今後の事業実施や人員体制等の課題整理を行っていきます。

H28年度以降の取組みスケジュール

年度	H26(実績)	H27(実績)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
取組み内容		統合に向けた検討	統合に向けた検討							

H25年度策定時の今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的な取組み
H25年11月当初	統合の上、存続	永山公民館	29以降	健康センターの大規模改修時期に合わせ、平成29年度以降に公民館事業を永山に統合します。施設については、市民活動の場として貸し出すとともに、駅前の立地を活かし、市民ロビー及びホールを中心に民間活力を導入して集客増加、歳入確保を図ります。

豊ヶ丘市民ミーティング

2018年3月25日



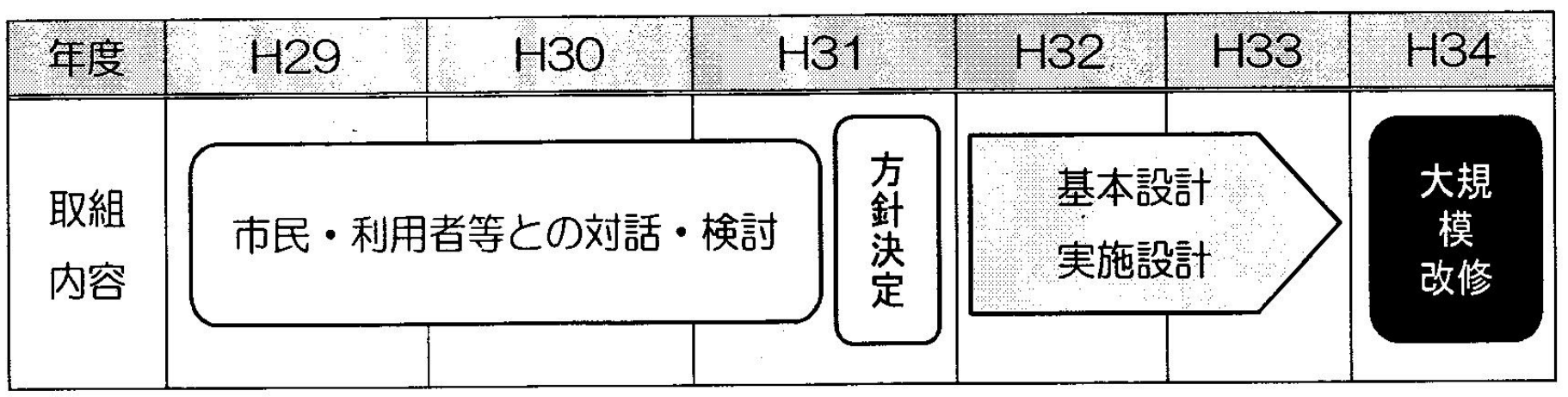
多摩市の現在の考え方

- 約8割が築30年以上・少子化、高齢化

厳しい財政状況

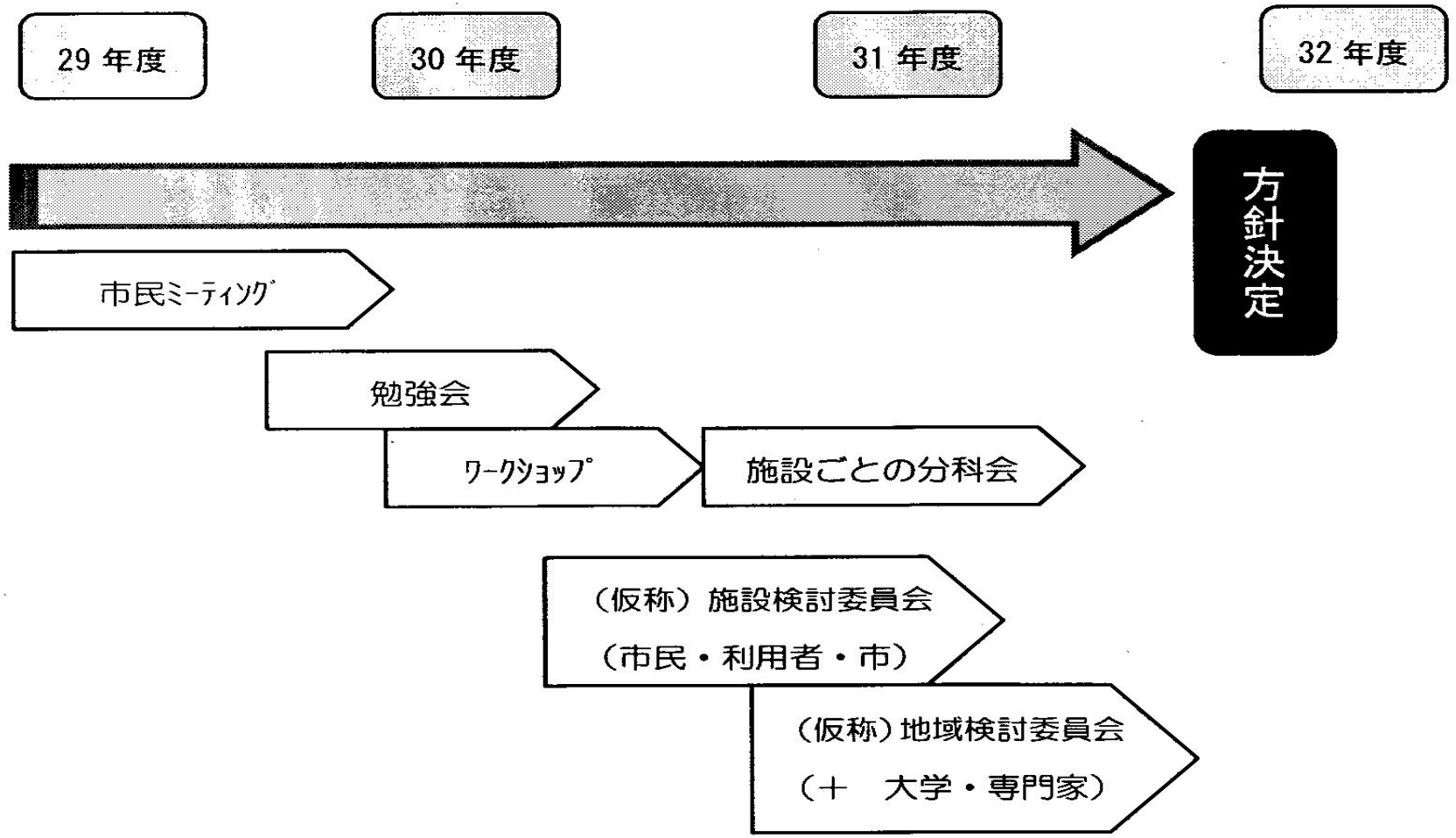
⇩

- すべての公共施設を維持することは困難



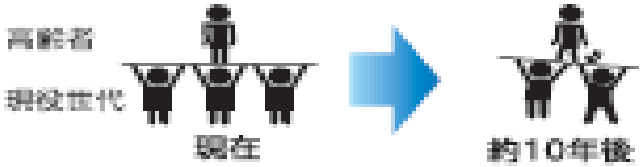
2018.3.25　多摩市企画政策部行政管理課

例えば・・・



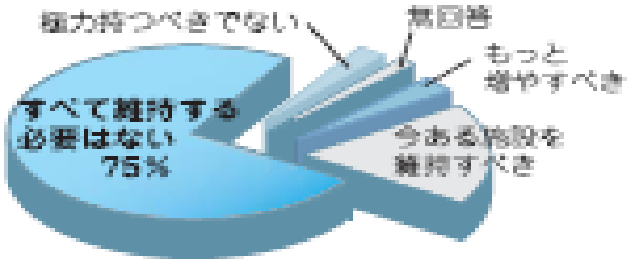
多摩市の3つの視点

劇的に変化する、
多摩市を取り巻く社会経済状況



少子化・高齢化が進むと、増えていく医療や介護等にかかる費用に税収が追いつかず、収支のバランスが保てなくなります。今後、公共施設にかけられるお金は、確実に減っていきます。

多くの方が気づいている、
全ての施設を維持できないことを



多摩市公共施設の見直しについてのアンケート調査
(平成27年9月時点)
無作為抽出による16歳以上の市内在住600人対象 (回答率36.8%)

公共施設の見直し
３つの目的

1. 安全に使い続ける
2. 施設全体のダイエット
3. 時代のニーズに合わせた施設への機能転換

施設総量を見直し、新たなニーズに対応できるまちへ

自治基本条例基本原則

（基本原則）

第4条　私たちのまちの自治は、市民の意思に基づき、次の各号に掲げる基本原則によって推進されなければなりません。

(1) 性別年齢などにかかわらず、市民一人ひとりの人権が保障され、その個性及び能力が十分に発揮されること。

(2) 市民、市議会及び市の執行機関がまちづくりに関する互いの情報を共有すること。

(3) 市民の自主的・自立的な参画が保障されること。

市民の権利

（市民の権利）

第5条　市民は、まちづくりに参画する権利を有します。

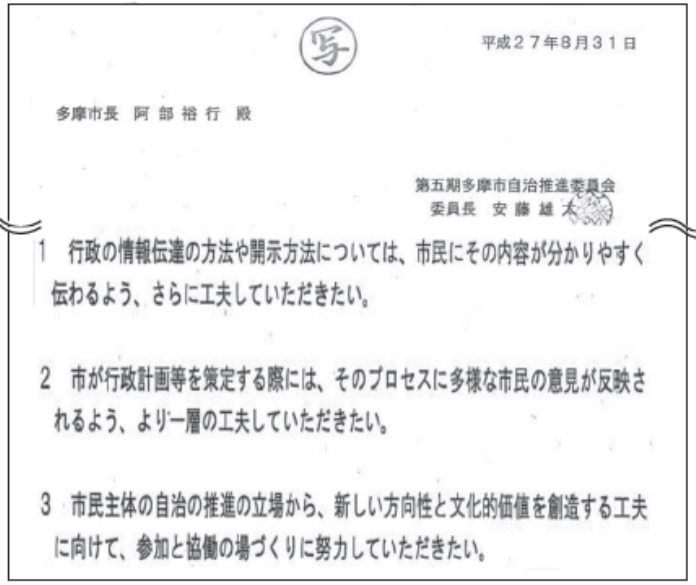
2　市民は、まちづくりに関し、自らの意見を表明し、又は提案することができます。

3　市民は、まちづくりに関し、市議会及び市の執行機関の保有する情報を知ることができます。

「地域図書館なくさないで」が市民の意思

多摩市には最高規範として自治基本条例があります。その４条は「私たちのまちの自治は市民の意思に基づき」と明記しています。現在７館ある図書館を４館減らして３館にすることは果たして多摩市民の意思なのでしょうか。自治推進委員会からも右のような意見が市長へ提出されています。

自治推進委員会からの意見



写

平成２７年８月３１日

多摩市長　阿部裕行　殿

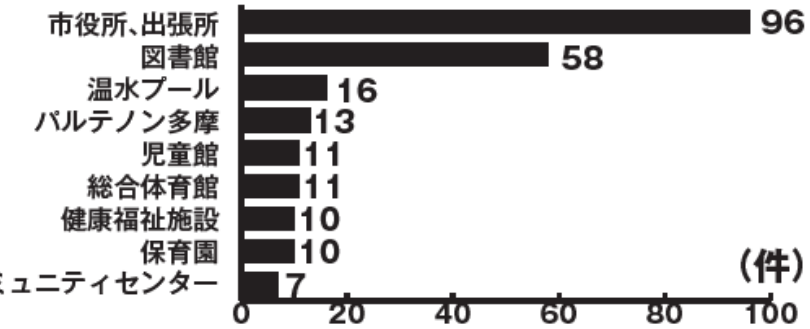
第五期多摩市自治推進委員会
委員長　安藤雄太

1　行政の情報伝達の方法や開示方法については、市民にその内容が分かりやすく伝わるよう、さらに工夫していただきたい。

2　市が行政計画等を策定する際には、そのプロセスに多様な市民の意見が反映されるよう、より一層の工夫していただきたい。

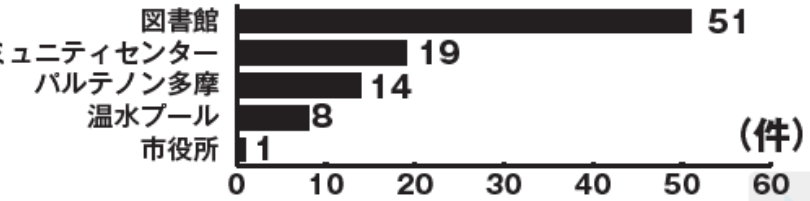
3　市民主体の自治の推進の立場から、新しい方向性と文化的価値を創造する工夫に向けて、参加と協働の場づくりに努力していただきたい。

なくなったら生活に影響する施設



「多摩市の公共施設の適正配置に関するアンケート」（平成 24 年度）

よく利用する施設



「多摩市公共施設の見直しについてのアンケート」（平成 27 年）

市に必要な施設（身近な施設の変化）

	平成25年度		平成27年度	
1	小売店（商店街）	24.5%	小売店（商店街）	22.4%
2	診療所・病院	20.8%	診療所・病院	20.5%
3	地域の運動施設	17.8%	地域の運動施設	17.8%
4	バス路線（バス停）	12.3%	地区図書館	14.9%
5	コミュニティセンター	10.7%	バス路線（バス停）	13.1%
6	子どもの遊び場（児童公園）	10.3%	コミュニティセンター	10.8%
7	保育所	9.7%	保育所	10.2%
8	交番（派出所）	9.3%	子どもの遊び場（児童公園）	9.3%
9	郵便局（ポスト）	9.2%	交番（派出所）	8.5%
10	地区図書館	7.7%	郵便局（ポスト）	7.6%

平成 28 年１月多摩市政世論調査

平成２４年度

公共施設の適正配置に関するアンケート

集計結果

問 1-7　なくなってしまった場合、あなたの生活に影響が出る施設があればお知らせください。

施設名	件数
市役所、出張所	96
なし	62
図書館	58
温水プール	16
パルテノン多摩	13
児童館	11
総合体育館	11
健康福祉施設	10
保育園	10
コミュニティセンター	7
学童クラブ	5
地区市民ホール	5
ディサービスセンター	5
子育て支援施設	4
市営住宅	4
総合福祉センター	4
公民館	3
市民活動施設	3
子育て総合センター	2

施設名	件数
アクアブルー多摩	1
旧南永山小学校グランド	1
教育センター	1
グリーンライブセンター	1
健康福祉センター	1
サッカー場	1
島田療育センター	1
関戸図書館	1
粗大ごみ清掃工場	1
駐輪場	1
トムハウス	1
東永山小学校	1
武道館	1
陸上競技場	1
老人福祉館	1

問 1-8　次の施設の中で大切だと思う順に 1～13 の順位をご記入ください。

合計	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	分からない
A.図書館	33	62	43	16	6	2	5	2	2	2	1	0	0	19
B.市役所出張所	112	27	8	6	6	5	4	2	0	2	3	2	1	15
C.児童館	13	34	39	17	12	20	7	7	4	4	1	0	2	33
D.パルテノン多摩	11	16	29	22	20	14	14	12	7	7	7	0	3	31
E.公民館	3	9	17	31	22	11	21	10	10	7	7	3	0	41
F.温水プール	2	3	8	17	10	16	21	12	16	17	11	7	3	50
G.総合体育館	3	5	14	9	26	25	14	22	12	8	7	0	0	48
H.陸上競技場	1	0	5	6	9	12	18	25	18	20	8	11	4	56
I.武道館	0	0	0	4	5	5	9	16	19	17	28	16	10	64
J.地区市民ホール	2	6	5	10	22	20	14	16	19	17	7	6	0	49
K.コミュニティセンター	1	10	5	17	18	12	14	11	8	16	22	2	0	57
L.フレンドリー「ふじみ」	0	2	2	2	4	6	4	6	11	2	8	36	33	77
M.グリーンライブセンター	1	4	1	5	2	4	3	4	8	5	8	24	35	89

問 1-9　次の施設は年間に何回利用しますか。

合計	10回以上	5回以上	1回以上	利用無し	無回答
A.図書館	70	28	29	47	9
B.市役所出張所	21	42	85	27	8
C.児童館	13	9	11	137	13
D.パルテノン多摩	9	23	67	74	10
E.公民館	9	10	31	123	10
F.温水プール	7	17	25	125	9
G.総合体育館	7	10	20	137	9
H.陸上競技場	0	2	9	163	9
I.武道館	1	1	1	171	9
J.地区市民ホール	6	6	25	136	10
K.コミュニティセンター	8	17	28	121	9
L.フレンドリー「ふじみ」	0	0	8	165	10
M.グリーンライブセンター	3	5	22	142	11

公共施設の見直しについてのアンケート

集計結果

（平成 27 年 8 月 28 日～平成 27 年 9 月 25 日実施）

21%

24%

【よく利用する施設】

図書館	50 件	総合福祉センター	4 件	地区市民ホール	1 件
コミュニティセンター	19 件	総合体育館	3 件	子育て総合センター	1 件
パルテノン多摩	14 件	東永山複合施設	3 件	フレンドリーふじみ	1 件
温水プール	7 件	老人福祉館	2 件	市役所	1 件
公民館	7 件	テニスコート	2 件		
児童館	6 件	クラブハウス	2 件		

（1）個人貸出冊数、予約受付件数

１３市の中で単純な貸出冊数では武蔵野市、西東京市に次いで３位、人口ひとりあたりに換算すると、武蔵野市に次いで２位となり、比較的図書館に恵まれている２６市の中でも非常に高いレベルにあることがわかります。

個人貸出数（千冊）

1	武蔵野市	2,327
2	西東京市	2,213
3	多摩市	1,755
4	立川市	1,658
5	日野市	1,649
13市平均		1,384

市民ひとりあたり個人貸出数（冊）

1	武蔵野市	16.6
2	多摩市	12.0
3	西東京市	11.2
4	立川市	9.3
5	日野市	9.2
13市平均		9.1

個人貸出冊数と予約受付件数からわかることは、多摩市立図書館が非常に高いレベルで市民の方に利用されていることです。

第三次

- 多摩市子どもの読書活動推進計画

～すべての子どもに読書のよろこびを～

アンケート結果

2018年1月発表

小学生以上の子どもをもつ保護者、１８歳以上の方へのアンケート結果（図書館来館者、インターネット）

7.「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」を策定する上で、これから多摩市における子どもの読書環境の向上、読書活動の支援等の施策についてのご意見、ご要望（主な回答）

- やはり近くにあることが一番である。地域館を存続させてほしい。
- 子どもパスなど作ってみてはどうか？スタンプカードでもよい。（図書館で本を読んだら、図書館に来たらスタンプを押してもらえるもの）　・図書館に行きたいと思えるような雰囲気づくり。
- 読書通帳の導入を希望する。（記録は子どもたちの楽しみとなり、もっと本に親しむきっかけになると思うので）

１３．　多摩市立図書館がどのようになると、高校生が行きたいところになると思いますか？（主な回答）

- 自習室、勉強できる場所、コンセント、勉強の本、個室がある図書館
- マンガ、雑誌が置いてある図書館
- 楽しくする、明るくする。
- 分かりやすいところに建てる。行きやすい場所にする。
- 行ったことがない、行く気がない。

1歳6ヶ月児健診受診者

・子どもが騒いでもよいのであれば　・家の近くに図書館があれば　・時間があれば

3歳児健診受診者

・子どもが騒いでも、多少迷惑をかけても大丈夫であれば　・家の近くに図書館があれば

・時間があれば

その他、多摩市立図書館に対してお気づきの点、ご意見等（主な回答）

保育園

- 唐木田図書館の「理科の実験室」などのようなイベントがあると子どもが行きやすいと思う。
- 地域図書館の存続、リサイクル図書の継続実施

幼稚園

- 親も本をあまり読まなくなってきているので、親子で楽しめる企画などがあれば、園も協力する。

学童クラブ

- 地域図書館については需要があるので存続してほしい。
- 近くに図書館があることは、子ども達にとってすばらしい環境である。
- これからも図書館を活用したい。　・図書館の利用者が少ないように感じる。

児童館

- 地域図書館は興味がある子供は直接利用しているようだ。
- 児童書の担当者には専門職を配置してほしい。

7．市政への要望
(1) 市に必要な施設（問15①市内全域の施設）
(2) 市に必要な施設（問15②身近な地域の施設）

第３６回

多摩市政世論調査報告書

１３．市政への要望 135
(1) 市政の満足度（問32）
(2) 行政に特に力を入れてほしいこと（問32）

第３７回

１４．市施設の利用状況
(1) 市施設の認知度と利用状況（問33） 143

多摩市政世論調査報告書

表7－2　市に必要な施設（市内全域の変化）

平成23年度		
順位	項目	割合
1	総合・専門病院	34.3%
2	老人ホーム	22.5%
3	高齢者在宅サービスセンター	21.2%
4	大型デパート・スーパー	16.9%
5	市民葬祭場	15.6%
6	駅周辺の自転車駐輪場	13.7%
7	子育て支援センター	13.2%
8	中央図書館	10.3%
9	駅周辺の駐車場	8.6%
10	公園・緑地	7.5%

平成25年度		
順位	項目	割合
1	総合・専門病院	34.3%
2	高齢者在宅サービスセンター	21.5%
3	老人ホーム	21.3%
4	大型デパート・スーパー	16.5%
5	駅周辺の自転車駐輪場	14.8%
6	子育て支援センター	13.3%
7	市民葬祭場	12.3%
8	中央図書館	11.7%
9	公園・緑地	8.5%
10	駅周辺の駐車場	7.6%

平成27年度		
順位	項目	割合
1	総合・専門病院	31.6%
2	老人ホーム	24.1%
3	高齢者在宅サービスセンター	21.4%
4	大型デパート・スーパー	19.7%
5	駅周辺の自転車駐輪場	16.4%
6	中央図書館	14.6%
7	子育て支援センター	13.4%
8	市民葬祭場	12.2%
9	駅周辺の駐車場	9.4%
10	市営住宅	7.3%

表７－４　市に必要な施設（身近な施設の変化）

平成23年度		
順位	項目	割合
1	小売店（商店街）	21.3%
2	診療所・病院	19.6%
3	地域の運動施設	18.1%
4	バス路線（バス停）	13.8%
5	コミュニティセンター	10.9%
6	保育所	10.2%
7	交番（派出所）	9.8%
8	子供の遊び場（児童公園）	8.8%
9	地区図書館	8.4%
10	郵便局（ホスト）	7.8%

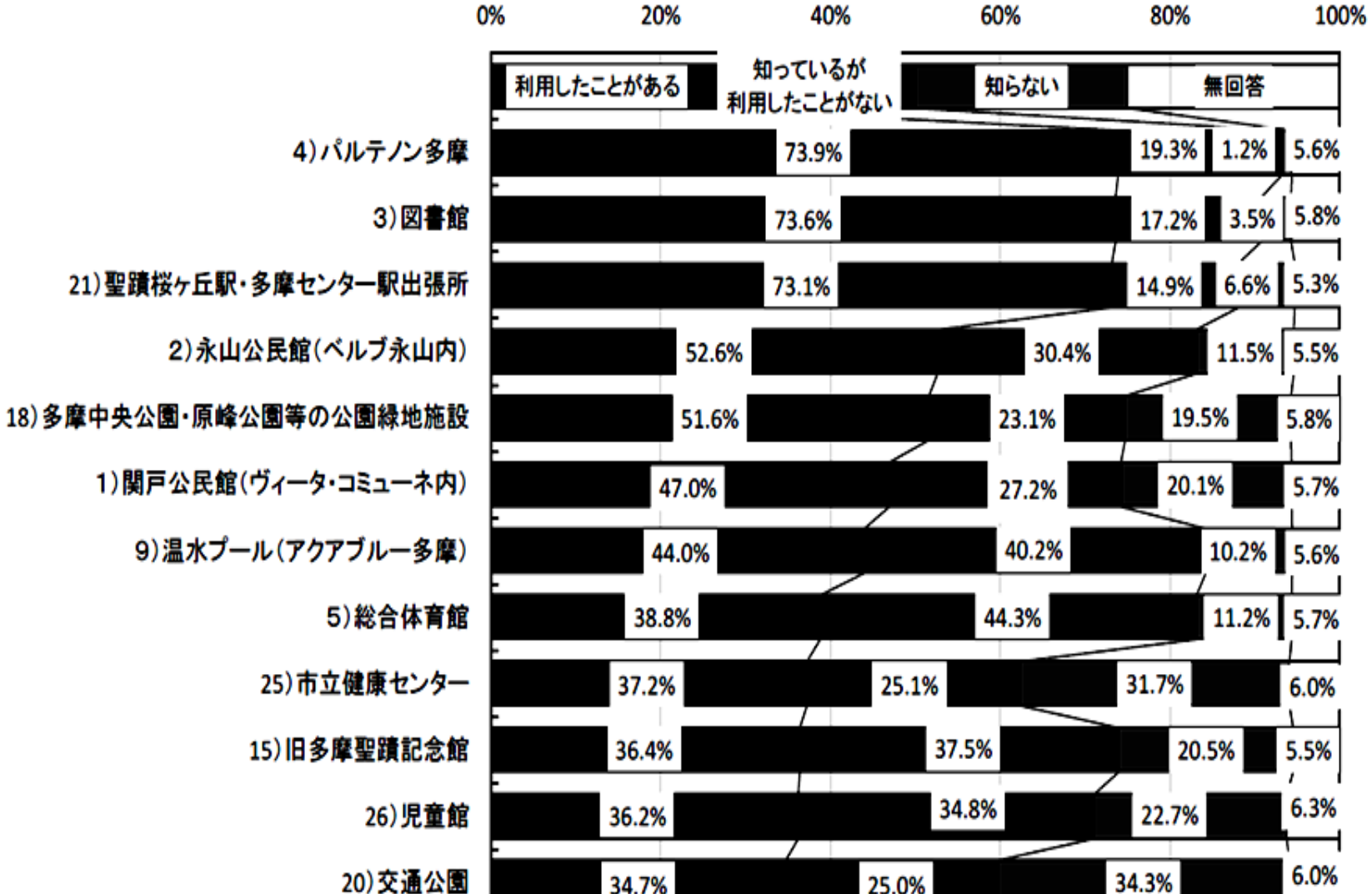
平成25年度		
順位	項目	割合
1	小売店（商店街）	24.5%
2	診療所・病院	20.8%
3	地域の運動施設	17.3%
4	バス路線（バス停）	12.3%
5	コミュニティセンター	10.7%
6	子供の遊び場（児童公園）	10.3%
7	保育所	9.7%
8	交番（派出所）	9.3%
9	郵便局（ホスト）	9.2%
10	地区図書館	7.7%

平成27年度		
順位	項目	割合
1	小売店（商店街）	22.4%
2	診療所・病院	20.5%
3	地域の運動施設	17.6%
4	地区図書館	14.9%
5	バス路線（バス停）	13.1%
6	コミュニティセンター	10.8%
7	保育所	10.2%
8	子供の遊び場（児童公園）	9.3%
9	交番（派出所）	8.5%
10	郵便局（ホスト）	7.6%

１４．市施設の利用状況

（１）市施設の認知度と利用状況（問 33）

問 33. 現在、多摩市内にある施設について、あなたは知っていますか。また、利用したことがありますか。（項目ごとに１つだけ）

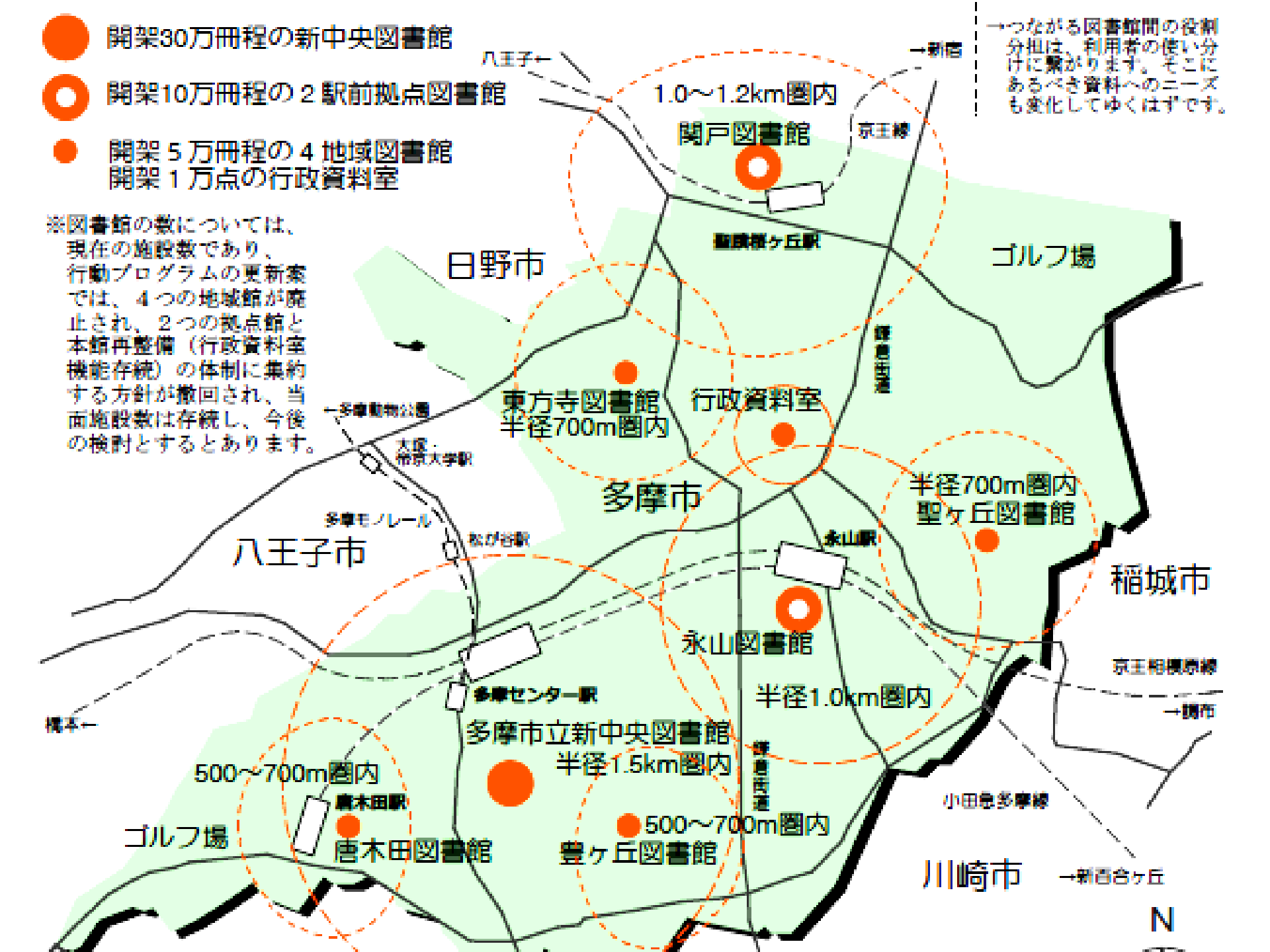


多摩市立図書館本館再構築基本構想

2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館

（1）図書館システムとしての多摩市立図書館

中央図書館、駅前拠点図書館、地域図書館、学校図書館、アウトリーチサービスなどの本仕の拠点をつなぐ、全市をおおう図書館サービスのネットワーク（図書館システム）の総体を、多摩市立図書館と考えます。


開架30万冊程の新中央図書館
開架10万冊程の２駅前拠点図書館
開架５万冊程の４地域図書館
開架１万点の行政資料室
※図書館の数については、現在の施設数であり、行動プログラムの更新案では、４つの地域館が廃止され、２つの拠点館と本館再整備（行政資料室機能存続）の体制に集約する方針が撤回され、当面施設数は存続し、今後の検討とするとあります。
→つながる図書館間の役割分担は、利用者の使い分けに繋がります。そこにあるべき資料へのニーズも変化してゆくはずです。
八王子←
→新宿
1.0～1.2km圏内
関戸図書館
京王線
聖蹟桜ヶ丘駅
日野市
ゴルフ場
東方寺図書館
半径700m圏内
行政資料室
中央自動車道
←多摩動物公園
大塚・帝京大学駅
多摩市
半径700m圏内
聖ヶ丘図書館
多摩モノレール
松が谷駅
八王子市
永山駅
稲城市
永山図書館
京王相模原線
多摩センター駅
半径1.0km圏内
橋本←
→調布
多摩市立新中央図書館
半径1.5km圏内
500～700m圏内
唐木田駅
小田急多摩線
500～700m圏内
ゴルフ場
唐木田図書館
豊ヶ丘図書館
川崎市
→新百合ヶ丘
N

よりよいまちづくりを目指して

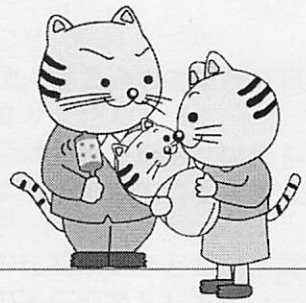
多摩市
自治基本条例



多　摩　市

多摩市公式ホームページ　http://www.city.tama.lg.jp/

誕生までに3年半



2000 年 11 月、市民のワークショップへの参加の呼びかけに応えた市民によりスタートしました！

1年半をかけての市民による素案づくり、その条例素案を尊重しての行政の検討、そして、議会での審議を経て、2004 年 3 月に自治基本条例が成立しました。その後、条例の具体的な手続きを整備し、2004 年8月 1 日に施行となりました。

市民、行政、議会がそれぞれの役割と責任により議論を重ね、紆余曲折(うよきょくせつ)を経て切磋琢磨の末に完成に至った、その過程そのものが、まちづくりの精神である、という評価を得ています。

自治基本条例ってどんなもの？

私たちのまちを私たちが作るための、最も基本的な考え方と、それを実現するための具体的な取り組みや方法(行動原則)を定めたルールです。

地方分権により「自分たちのまちのことは、自分たちで決める」という、市民がまちづくりの主役を担う時代です。

様々な担い手と共に暮らしやすい社会を作っていくために、多摩市のまちづくりのシステムを構築していく必要があります。

自治基本条例は、市民が、市民の手で、市民の責任で、主体的にまちづくりに関わるための基本事項を条例で定めたものです。

誕生してどんなことが？

★ 情報の共有化を目指して

自治基本条例第17条・18条では市議会や市が保有情報を「市民にとってわかりやすいものにすること」や「情報公開を総合的に推進すること」が定められています。

行政資料室や各図書館では、行政・郷土資料コーナーがあります。審議会関係の記録や資料の充実に努めており、利用端末では市の刊行物の概要が確認できます。

公式ホームページでは、市政やまちのさまざまな情報、自治基本条例に基づく市民参画の情報を確認することもできます。アクセシビリティの向上や広報キャラクターによるTwitterなど、より多く幅広い方にご覧いただけるよう努めています。

また、審議会委員の公募、ワークショップ、市民説明会などの情報共有、参画の場の充実を図っています。

これからも、市民のみなさんの知恵や力が発揮しやすいように情報共有の環境を整えていきますので、まちにご意見をお寄せください。

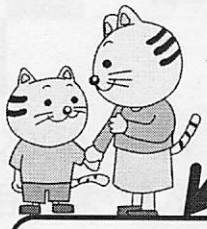
あなたも「にゃんとも TAMA 三郎」の
Twitter フォロワーに！
@nyantomo_tama



市役所職員 にゃんともTAMA三郎

あなたの多摩市民参画度Ｃｈｅｃｋ

はい →
いいえ →



多摩市を住みやすいまちにしたい

多摩市内のイベントに参加したことがある

気の合う知人・友人と活動をしている



多摩市が好き

近所の人の名前と顔が５人以上一致する

休日は、多摩市で遊ぶ

困っている人には声をかけるほう

まちづくりに市民が積極的に関わっていた方がいいと思う

多摩市にいつまでも住みつづけたい

多摩市自治基本条例を知っている

何か地域に貢献したいと思っている

他人の意見にもよく耳をかたむける方だ



要注意！
このままでは、多摩市に寝に帰るだけに…たま広報・市ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞをのぞいて見てください。



もう一歩！
もっとまちづくりに関わると暮らしも楽しくなるかも…お近くの公共施設などで情報をみつけてみてください。

素質あり！
まちにはあなたの活動の機会がいっぱい。充実した未来が待っているかも…近所を見渡してみてください。

技あり！
さらに、まちづくりへの資質を磨けば、楽しい市民生活が待っています。活動場所を見つけてみてください。

匠！
なんということでしょう。あなたはもうまちづくりのリーダーです！これからも、担い手として多摩市を磨いてください。

これからも多摩市を愛してください♥

多摩市自治基本条例

【平成１６年８月１日施行】

目次

第１章　総則（第１条-第３条）
第２章　基本原則
　第１節 基本原則(第４条)
　第２節 市民の役割（第５条・第６条）
　第３節 コミュニティの役割（第７条）
　第４節 市議会の役割(第８条-第１１条)
　第５節 市長の役割（第１２条-第１４条）
　第６節 市の執行体制(第１５条・第１６条)
第３章　情報の共有（第１７条-第２０条）
第４章　参画・協働
　第１節　参画・協働（第２１条・第２２条）
　第２節　参画の形態（第２３条-第２６条）
　第３節　参画への支援（第２７条）
第５章　住民投票（第２８条・第２９条）
第６章　自治推進委員会の設置等
　　（第３０条・第３１条）
附則

私たちが暮らす多摩市は、太陽の光あふれる、緑豊かなまちです。

私たちは、ここに集い、あるいは生まれ育ち、学び働き、暮らし、生涯を終え、それぞれの歴史を刻み、文化を育んでいます。

私たちは、先人の英知とたゆまぬ努力によって発展してきた大切なこのまちを、より暮らしやすくするとともに、次の世代へ引き継ぐために、ともに力をあわせて自ら築いていかなければなりません。

そのためには、市民が、市民の手で、市民の責任で主体的にまちづくりにかかわることが大切です。

このため、私たちは、一人ひとりの人権を尊重しつつ責任を分かち合うとともに、誰もがまちづくりに参画することによって、私たちのまちの自治を推進し、それぞれの持つ個性や能力がまちづくりに発揮される地域社会の実現をめざし、ここに多摩市自治基本条例を制定します。

第１章　総則

（目的）

第１条 この条例は、地方自治の本旨に基づき、私たちのまちの自治の基本原則を定め、市民、市議会及び市長をはじめとする多摩市（以下「市」といいます。）の執行機関のそれぞれの役割を明確にし、ともに考え協力し、行動することにより、市民の福祉を向上し、豊かな地域社会の実現を図ることを目的とします。

（条例の位置付け）

第２条　この条例は、私たちのまちの自治について、最も基本的な理念及び行動原則を定めるものであり、市が定める最高規範です。

（定義）

第３条　この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによります。

(1)　私たちのまちの自治
　まちづくりの主体者である市民、市議会及び市の執行機関がそれぞれの役割に応じて連携し、地域社会を築いていくこと。

(2)　市民
　市内に居住する者、働く者及び学ぶ者並びに市内で事業を営むもの又は活動する団体等をいいます。

(3)　市の執行機関
　市長、教育委員会、監査委員、選挙管理委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。

(4)　参画
　市民がまちづくりに主体的に参加し、行動することをいいます。

(5)　協働
　市民、市議会及び市の執行機関が、それぞれの役割及び責任のもとで、まちづくりのために、ともに考え協力し、行動することをいいます。

第２章　基本原則

第１節　基本原則

（基本原則）

第４条　私たちのまちの自治は、市民の意思に基づき、次の各号に掲げる基本原則によって推進されなければなりません。

(1)　性別年齢などにかかわらず、市民一人ひとりの人権が保障され、その個性及び能力が十分に発揮されること。

(2)　市民、市議会及び市の執行機関がまちづ

くりに関する互いの情報を共有すること。
(3) 市民の自主的・自立的な参画が保障されること。

第２節　市民の役割

（市民の権利）

第５条　市民は、まちづくりに参画する権利を有します。

２　市民は、まちづくりに関し、自らの意見を表明し、又は提案することができます。

３　市民は、まちづくりに関し、市議会及び市の執行機関の保有する情報を知ることができます。

（市民の義務）

第６条　市民は、まちづくりに参画するにあたり自らの発言及び行動に責任を持つものとします。

２　市民は、前条で定める権利の行使にあたり、公共の福祉、次世代及び市の将来に配慮するものとします。

第３節　コミュニティの役割

（コミュニティ）

第７条　コミュニティとは、市民が互いに助け合い、心豊かな生活をおくることを目的として、自主的に結ばれた組織をいいます。

２　市民、市議会及び市の執行機関は、地域社会を多様に支え、自主的かつ自立的なコミュニティ活動の役割を尊重するものとします。

第４節　市議会の役割

（市議会の設置）

第８条　住民の直接選挙による議員で構成された、市の意思決定機関として市議会を設置します。

（市議会の権限）

第９条　市議会は、市の重要事項を議決する権限並びに市の執行機関に対し、監視及びけん制する権限を有します。

２　市議会は、法令の定めるところにより、条例の制定改廃、予算、決算の認定等を議決する権限並びに執行機関に関する検査及び監査の請求等の権限並びに市政に関する調査及び国又は関係機関に意見書を提出する等の権限を有します。

（市議会の責務）

第１０条　市議会は、その権限を行使することにより、私たちのまちの自治の発展及び市民の福祉の向上に努めなければなりません。

２　市議会は、情報を公開し、市民に開かれた議会運営に努めなければなりません。

（市議会議員の責務）

第１１条　市議会議員は、市民の代表者としての品位と名誉を保持し、常に市民全体の利益を行動の指針とします。

２　市議会議員は、市議会の責務を遂行するため、自己研鑽に努めなければなりません。

第５節　市長の役割

（市長の設置）

第１２条　住民の直接選挙により選ばれた、市の代表として、市長を置きます。

（市長の権限）

第１３条　市長は、私たちのまちの自治を発展させるとともに、市民の福祉を向上させるための政策を推進し、市を代表する権限を有します。

（市長の責務）

第１４条　市長は、第４条に定める基本原則に基づき、自治の充実発展及び市民の福祉の向上に必要な施策を講じなければなりません。

２　市長は、新たな行政課題等に対応できるよう、機動的かつ柔軟な組織運営及び事務執行を行い、最少の経費で最良の行政サービスを提供できるよう努めなければなりません。

第６節　市の執行体制

（市の自立）

第１５条　市は、国及び東京都と対等の立場に立ち、まちづくりの推進にあたっては、自ら判断し、その責任において、権限を行使するものとします。

２　市は、必要に応じて他の地方公共団体と連携し、まちづくりの推進に努めるものとします。

（市の組織体制）

第１６条　市の執行機関は、総合計画、条例、予算その他市議会の議決に基づく施策及び事業並びに法令等に定められた事務について、公正かつ迅速に執行できる組織体制を整備しなければなりません。

２　市の執行機関は、まちづくりに必要な能力を有する職員を育成しなければなりません。

３　市の執行機関の職員は、市民の信頼に応え、この条例の趣旨に則して職務を遂行しなければなりません。

第３章　情報の共有

（情報共有）

第１７条　市議会及び市の執行機関は、保有する情報が、市民共有の財産であることから、これを市民にとってわかりやすいものにしなければなりません。

２　市議会及び市の執行機関は、市民の参画及び協働にあたって、情報が共有されるよう、必要な措置を講じなければなりません。

（情報公開）

第１８条　市議会及び市の執行機関は、市民の知る権利を保障し、公正で透明な市政の実現を図るため、情報の公開を総合的に推進しなければなりません。

（個人情報の保護）

第１９条　市議会及び市の執行機関は、市民の自己に関する個人情報の開示、訂正、削除等を請求する権利を保障するとともに、個人情報の保護措置を講じ、市民の基本的人権を擁護し、信頼される市政を実現しなければなりません。

（説明・応答責任）

第２０条　市の執行機関は、市民に対し市政に関する事項を説明する責務を果さなければなりません。

２　市の執行機関は、市民から寄せられた意見その他市民からの要望等に対し、応答する責任を負うものとします。

第４章　参画・協働

第１節　参画・協働

（参画・協働）

第２１条　市民は、市の執行機関における計画の策定、実施及び評価の各段階に参画することができます。

２　市の執行機関は、第５条第１項及び第２項に規定する権利を保障するために、この章に掲げる施策を講じなければなりません。

（参画の保障）

第２２条　市の執行機関は、市民の意見が市政に反映されるとともに、参画する機会が保障されるよう、多様な参画制度を整備しなければなりません。

２　市の執行機関は、市民が参画できないことにより、不利益を受けることのないよう、配慮します。

第２節　参画の形態

（参画の形態）

第２３条　市の執行機関は、前条の規定による参画する機会を保障するため、次の各号に掲げる方法のうち事案に応じて必要なものを用いるものとします。

⑴　審議会、懇談会等への委員としての参画

⑵　公聴会等への参画

⑶　一定の課題について集団で検討作業を行うこと（ワークショップ等）への参画

⑷　意思決定過程で素案を公表し、市民から出された意見・情報を考慮して決定する制度（パブリックコメント等）への意見表明

⑸　アンケート調査等への意見表明

２　市の執行機関は、参画の方法及び聴取した意見等の取扱いを決定したときは、これを事前に公表しなければなりません。

（計画策定等への参画）

第２４条　市の執行機関は、基本構想、基本計画及び各施策の基本となる計画の策定等を行うにあたり、前条第１項各号に掲げる方法を用いて、市民の参画する機会を保障するものとします。

（事業実施における参画）

第２５条　市の執行機関は、事業の実施にあたり、市民の参画を得るとともに、多様な市民の知恵と活力が活かされるよう努めるものとします。

２　市の執行機関は、地域の課題を解決するため、自立的に活動する各種団体等の自主性を尊重し、協働を進めるものとします。

（評価への参画）

第２６条　市の執行機関は、実施した主要な事業について評価し、その結果を公表するものとします。

２　市民は、市の執行機関が行っている政策及び事業に対し評価することができます。

３　市の執行機関は、前２項の評価を施策に反映するよう努めるものとします。

第３節　参画への支援

（参画への支援）

第２７条　市の執行機関は、市民がまちづくりの主体者として、参画しやすい環境整備に努めなければなりません。

第５章　住民投票

（住民投票）

第２８条　市長は、市政に係る重要事項について、広く市民の意思を確認するため、必要に応じて住民投票を実施することができます。

２　市長は、住民投票で得た結果を尊重しなければなりません。

３　住民投票を行う場合はその事案ごとに、投票権者、投票結果の取扱い等を規定した条例を別に定めるものとします。

（住民投票の発議・請求）

第２９条　市長は、住民投票を規定した条例を市議会に提出することにより住民投票を発議することができます。

２　市議会議員は、法令の定めるところにより、議員定数の１２分の１以上の市議会議員の賛成を得て、住民投票を規定した条例を市議会に提出することにより住民投票を発議することができます。

３　住民のうち、選挙権を有する者は、法令の定めるところにより、その総数の５０分の１以上の者の連署をもって、住民投票を規定した条例の制定を市長に請求することができます。

第６章　自治推進委員会の設置等

（自治推進委員会の設置）

第３０条　私たちのまちの自治の円滑な推進を図るため、多摩市自治推進委員会（以下「委員会」といいます。）を設置します。

２　委員会は、市長の諮問に応じ、自治の推進に関する事項について審議し、市長に答申するものとします。

３　委員会は、前項に規定するもののほか、自治の推進に関する重要事項について、市長に提言することができます。

４　市長は、委員会の答申及び提言を尊重しなければなりません。

５　委員会は、地方自治に識見を有する者及び市民による６人以内の委員をもって構成します。

６　委員の任期は２年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とします。

７　前各項に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定めます。

（委任）

第３１条　この条例の施行に関し必要な事項は、市議会及び市の執行機関が別に定めるものとします。

附　則

この条例は、公布の日から起算して６月を超えない範囲内において規則で定める日から施行します。

問合せ：企画政策部企画課（TEL：042-338-6813 ）

仮想「立候補予定者」との市民対話集会

ご参加ありがとうございました。本日のご感想や多摩市の社会教育施策、社会教育施設に対するあなたの思いなど、お書きください。

2018 年 3 月 31 日　　多摩市の社会教育を考える会

お差し支えなければお名前：

今後連絡をご希望の場合は、連絡先：



多摩市の社会教育を考える会



多摩市の社会教育を考える会は、多摩市の社会教育各分野で活動している市民が、多摩市のよりよい社会教育をめさして学び合い、市政、世論に積極的働きかけていく会です。「多摩市の社会教育について考える相談会」(2014 年 12 月 23 日豊ヶ丘集会所にて開催)で発足しました。 **問い合わせ先** 荒井容子(yarai@hosei.ac.jp) 安室君子(tel/fax 042-373-8258)

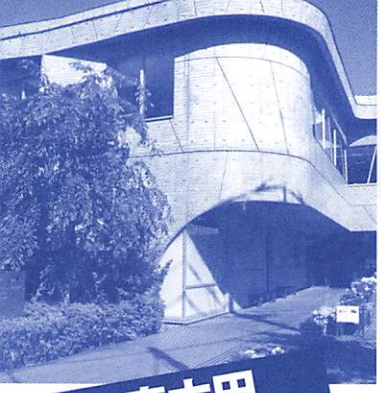
次回会合の日程など、ご案内いたします。

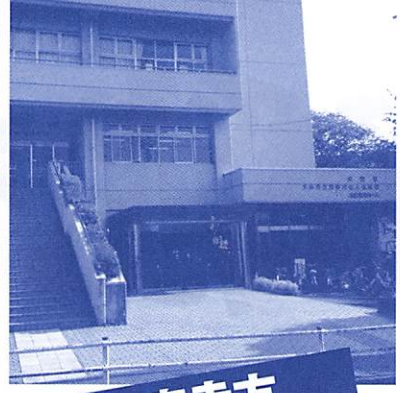
【これまでの主な活動】

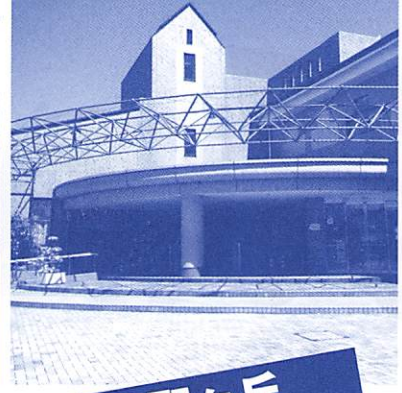
2014 年 12 月 23 日「多摩市の社会教育についか考える相談会」(仮称「多摩市社会教育を考える会」に向けて)にて発足。
2014 年 12 月　多摩市第 5 次総合計画第 2 期計画案についてメンハーがそれぞれに社会教育に関わるところでパブリックコメントを提出。
2015 年 1 月～2 月　メンバーが公民館利用者懇談会に参加。
2015 年 3 月 1 日　多摩市に中央図書館をつくる会の学習会に参加。
2015 年 3 月 8 日　メンバーが図書館利用者懇談会に参加。
2015 年 3 月 24 日　4 月の市会議員選挙に関わって、多摩市議会議員選挙立候補予定者に対する「多摩市の社会教育に関するアンケート」の実施(4 月 5 日到着分の回答すべてを公表)。
2015 年 4 月 1 日　多摩市の「学びあい育ちあい推進審議会」に対し「『多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム』における 社会教育施設の廃止・統合計画の見直しのお願い ～市民の社会教育活動を後退させないために見直してください。 また市に、見直すように要請してください～」 を提出(4 月 15 日、委員長より再審議できないとの回答を受ける)。
2015 年 4 月 5 日多摩市議会議員選挙立候補予定者との対話集会「社会教育施設の尊重を市政に望む」を実施。
2015 年 6 月 25 日　多摩市図書館協議会に対し「『多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム』における 地域館＝唐木田図書館・ 聖ケ丘図書館・東寺方図書館・豊ヶ丘図書館＝ の廃止計画見直しのお願い」を提出
2015 年 7 月 26 日「私の街」フェスティバルに参加、出演(4つのパフォーマンス)。
2015 年 9 月 9 日　多摩市図書館協議会傍聴
2015 年 9 月 19－20 日　永山フェスティバル 展示参加(一部参加型展示も実施)於　ギャラリー他。
2015 年 10 月 4 日　学習会「多摩市の財政の仕組みと現状」(出前講座制度活用)実施。
2015 年 10 月 4 日　多摩市第1回公民館利用者交流会　実施(多摩市公民館連絡会と合同開催)
2015 年 10 月 23-26 日多摩市市民文化祭 展示参加(含 諸催し。多数の市民活動団体と連携)於 パルテノン多摩市民ギャラリー
2015 年 11 月 22 日～2016 年 1 月 16 日多摩市の公民館の市民企画講座(5回連続)「多摩市の市民の学びを支える社会教育施設等の整備について考える」(当会の企画)(於　関戸公民館)実施。
2015 年 12 月 17 日　多摩市図書館協議会傍聴
2016 年 1 月 16 日～1 月 31 日　多摩市読書活動振興計画原案についての市民懇談会(7館で開催)に参加
2016 年 1 月 15 日～2 月 1 日　多摩市読書活動振興計画原案についてのパブリックコメントにメンバーそれぞれが応募

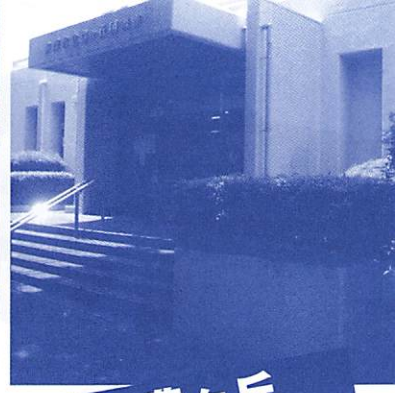
2016 年 1 月 24 日　地域ふれあいフォーラム多摩参加　関戸公民館ギャラリー（他団体の共同利用）。
2016 年 1 月 25 日　多摩市図書館協議会との懇談会実施
2016 年 1 月 29 日　多摩市図書館協議会傍聴
2016 年 2 月 25 日　多摩市図書館協議会傍聴
2016 年 2 月 26 日『多摩市読書活動振興計画　原案（2015 年 12 月 24 日）に対する私たちの意見
ーメンバー有志が投函したパブリックコメントー』を
「豊ヶ丘複合館存続の会」「東寺方複合館の存続を考える会」
「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」「唐木田図書館の存続を考える会」とともに発行。
2016 年 2 月 26「豊ヶ丘複合館存続の会」「東寺方複合館の存続を考える会」
「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」「唐木田図書館の存続を考える会」が実施した
多摩市教育委員会と懇談会に、同団体のメンバーとして参加。
2016 年 5 月　地域図書館存続をもとめる4団体による「市民の情報紙」づくりに協力（4/14、4/21、4/28、5/10、5/13、5/17、5/18）　★「市民の情報紙」No.1　（2016 年 5 月）を趣旨ともにホームページ掲載。
2016 年 7 月 31 日「私の街」フェスティバルに参加、出演
2016 年 8 月　地域図書館存続をもとめる4団体とともに
『公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案（2016 年 9 月更新予定）に対する私たちの意見
ーメンバーそれぞれによるパブリックコメントー』(2016 年 8 月）を発行（★ホームページ掲載）
2016 年 9 月 17-18 日　永山フェスティバル　展示参加（一部参加型展示も実施）於　ギャラリー
2016 年 11 月 3-5 日　第 39 回多摩市民文化祭参加　関戸公民館ギャラリーにて　展示と学習会
2016 年 11 月 25 日　学習会「地域包括支援センターについて」実施
（出前講座制度活用ー高齢福祉課に依頼）
2017 年 1 月 20 日　「多摩市の公民館について、市民として、利用者として考える集い」準備会　相談会
（関戸公民館主催　利用者懇談会　の前に実施）
「準備会」第1回（2 月 14 日）～第6回（6 月 9 日）　7 月 16 日の関戸公民館市民企画講座へ
2017 年 1 月 29 日　地域ふれあいフォーラム参加（関戸公民館ギャラリーで共同展示。市民ロビーでのパフォーマンスにも参加）
2017 年 7 月 14 日　学習会「多摩市の文化行政の歩みとこれまでの考え方
ーパルテノン多摩の建設とこれをとおした文化施策も含めてー」
（出前講座制度の活用ーくらしと文化部　文化・市民協働課に依頼）
2017 年 7 月 16 日　関戸公民館　市民企画講座
「私たちの街の公民館　地域イキイキ活動交流術」企画・実施
（多摩市公民館利用者連絡会　地域イキイキプロジェクト　として他団体と協力して企画・実施）
2017 年 7 月 16 日　「私たちの街」フェスティバル　パフォーマンス参加
2017 年 9 月 16 日　永山フェスティバル　展示参加
2017 年 10 月 21 日　永山公民館　市民企画講座
「多摩市の社会教育施設のあり方を考える市民と市議会議員との対話集会」企画・実施
2017 年 11 月 9-12 日　第 40 回多摩市民文化祭　展示参加（関戸公民館ギャラリーにて。
ミニ学習会も実施。
2018 年 1 月 28 日　地域ふれあいフォーラム（関戸公民館）参加予定　ギャラリー展示（共同）、
ロビーパフォーマンス
2018 年 2 月 26 日　多摩市立図書館本館再整備基本計画検討委員会より市民グループ意見ヒアリングを受ける（図書館本館講座室にて）

～発会後、会合は第1回（2015年2月3日）から、現在第56回（2018年3月29日）まで実施。


唐木田


東寺方


聖ヶ丘


豊ヶ丘

図書館 7館から3館に!?





わたしたちの 図書館をなくさないで

図書館は地域のたからもの

多くの市民が利用

個人貸出冊数・・・第2位
予約受付・・・・第1位
（全国同規模の市町村で）

ほんとうに財政難なの？

パルテノン多摩大規模改修 72~82億円

地域図書館4館の維持費
年間 1億5千万円

地域館の存続求める署名 1万5000筆

議会は陳情を採択、趣旨採択

多摩市は市民の声を尊重して

多摩市民による
市民の情報紙
No.1
2016年5月発行

大切な地域の公共施設の存続を求めて活動しています。

豊ヶ丘複合館存続の会　東寺方複合館の存続を考える会
聖ヶ丘図書館の存続を考える会　唐木田図書館の存続を考える会

編集・発行は4団体共同

これからも いつでもどこでも だれでも 利用できる図書館を

多摩市は、３年前に【公共施設の見直しプログラム】を発表しました。そして、昨年８月と今年３月、【政策情報誌 】Vol.1 、Vol.2を配布しました。現在多摩市がかかえている課題と施策を広く市民に知らせるためと説明しています。しかし、この【政策情報誌】には、見過ごせない多くの問題が含まれています。

私たちは、地域図書館の存続を求める市民の声を力に市長や関係部局と懇談を重ねてきました。今回、【政策情報誌】が語っていない図書館にかかわる問題点を広くみなさんに知っていただき、多摩市が築き上げてきた「図書館７館体制」を維持することを願い、【市民による市民の情報紙】を発行することにしました。

多摩市は、「読書活動振興計画（原案）」に関するパブリックコメントや市民懇談会で大多数を占めた「地域図書館存続」の意見に真摯に向き合い、誠実な回答を出すよう強く求めます。

「一緒に考えていきます」ってホント？

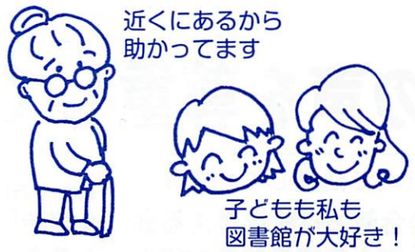
地域図書館など「身近な公共施設の存続を！」という願いは強く、15,000筆を超える陳情・要請署名が市民から寄せられました。

市議会は、存続を求めた陳情を採択・趣旨採択しました。それにもかかわらず、市は地域図書館を「見直し」の対象にあげつづけています。

【政策情報誌】は、パブリックコメントや市民懇談会に参加したほとんどの人から「身近な公共施設は生活必需品」「地域図書館はなくさないで」などの意見が出たことには言及していません。また、15,000筆の署名にも触れていません。市長は「特に地域施設の存続を求める声を、市民の方々をはじめ多くの方からいただいています」「合意形成が難しい課題ではありますが…」というだけで、未だに具体的な提案がありません。

多摩市はこの２年間、市民と何を話し、何を一緒に考えてきたのでしょう。

地域図書館はなくては ならないもの くらしに根づいています



（平成26年度）

地域図書館	貸出者数	貸出冊数	運営費(含む人件費)
聖ヶ丘図書館	40,998人	106,611冊	4,820万円
東寺方図書館	32,536人	92,342冊	2,238万円
豊ヶ丘図書館	61,474人	164,180冊	4,403万円
唐木田図書館	48,671人	127,218冊	4,130万円
計	183,679人	490,351冊	1億5,591万円

地域図書館を縮小・廃止して、読書活動を振興できるの？



【政策情報誌】Vol.2は、図書館について「本館の恒久整備」と「地域館のあり方を検討」するとしています。図書館とは、私たち市民の誰でもが気軽に知りたいことや学びたいことができた時、それに対して図書や情報を提供して、「知りたいことや学びたいこと」の手助けをしてくれるところです。地域図書館がなくなれば、すべての図書館利用者のうちの3割が、日常的に通える図書館を失います。

多摩市の図書館が【基本方針・運営方針】で掲げる「いつでも、どこでも、誰でも気軽に利用できる図書館」を私たちは求めます。子ども、高齢者、誰でもが歩いていける身近な図書館がなくなれば、読書活動の振興は望めません。

財源は使い方しだい

地域図書館は残してほしい、でも財源が心配……。

私たちは、少ない費用で公共施設を生かすことこそ、“公共施設を見直す道”と考えます。

【政策情報誌】Vol.2は、未来のために「新たなニーズに対応」し、「公共施設を見直す」としています。大きいものをあげると、パルテノン多摩、市庁舎、図書館本館の改修や建設です。誌面には金額を記載していませんが、莫大な金額を要する計画です。

地域図書館は、表に示したように、年間１億５千万円で運営できます。

こんな【（公共）施設総量を見直す】計画でよいのでしょうか？



複合館の年間利用者は22万人

東寺方複合館（築35年）10万2152人
豊ヶ丘複合館（築37年）12万4692人以上

改修すれば 20～30年使える！
3月4日市議会 市側答弁

費用は
豊ヶ丘複合館 3.4億
東寺方複合館 2.7億円

一方で

3月議会に出された 大規模施設関連計画

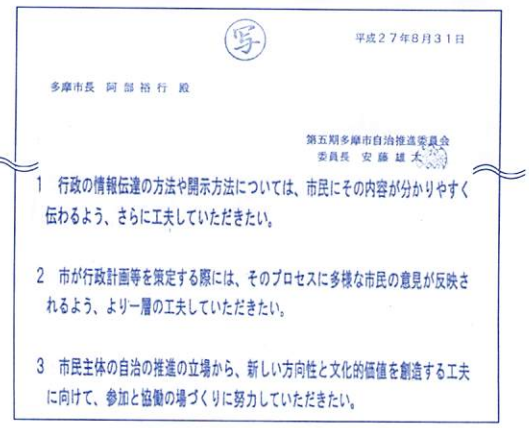
パルテノン多摩 大規模改修費	72億～82億円
新市庁舎 建設構想	A（現在地） 95億円 B（多摩センター） 171億円 C（永山） 119億円
図書館本館新設 桜美林ヒルズの一角に	（金額未定） ？？億円

数値は多摩市施設白書（H28年発行）とH28年3月市議会提出資料より

「地域図書館なくさないで」が市民の意思

多摩市には最高規範として自治基本条例があります。その４条は「私たちのまちの自治は市民の意思に基づき」と明記しています。現在７館ある図書館を４館減らして３館にすることは果たして多摩市民の意思なのでしょうか。自治推進委員会からも右のような意見が市長へ提出されています。

自治推進委員会からの意見



平成２７年８月３１日

多摩市長　阿部裕行　殿

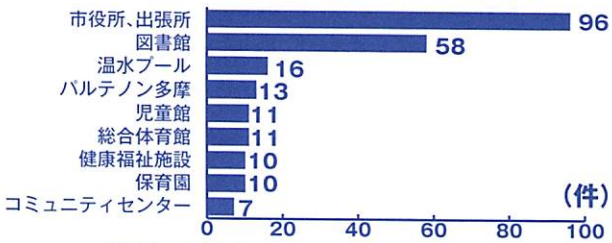
第五期多摩市自治推進委員会
委員長　安藤雄太

1　行政の情報伝達の方法や開示方法については、市民にその内容が分かりやすく伝わるよう、さらに工夫していただきたい。

2　市が行政計画等を策定する際には、そのプロセスに多様な市民の意見が反映されるよう、より一層の工夫していただきたい。

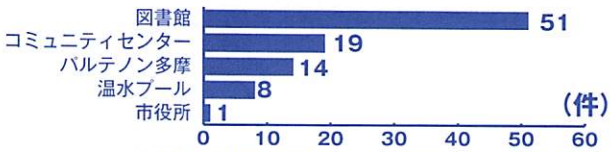
3　市民主体の自治の推進の立場から、新しい方向性と文化的価値を創造する工夫に向けて、参加と協働の場づくりに努力していただきたい。

なくなったら生活に影響する施設



「多摩市の公共施設の適正配置に関するアンケート」（平成 24 年度）

よく利用する施設



「多摩市公共施設の見直しについてのアンケート」（平成 27 年）

市に必要な施設（身近な施設の変化）

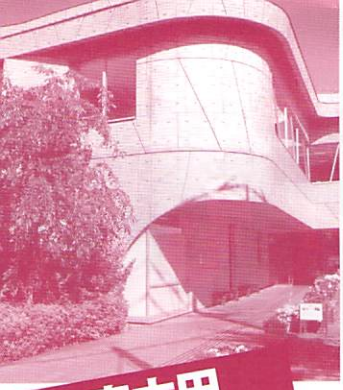
	平成25年度		平成27年度	
1	小売店(商店街)	24.5%	小売店(商店街)	22.4%
2	診療所・病院	20.8%	診療所・病院	20.5%
3	地域の運動施設	17.8%	地域の運動施設	17.8%
4	バス路線(バス停)	12.3%	地区図書館	14.9%
5	コミュニティセンター	10.7%	バス路線(バス停)	13.1%
6	子どもの遊び場(児童公園)	10.3%	コミュニティセンター	10.8%
7	保育所	9.7%	保育所	10.2%
8	交番(派出所)	9.3%	子どもの遊び場(児童公園)	9.3%
9	郵便局(ポスト)	9.2%	交番(派出所)	8.5%
10	地区図書館	7.7%	郵便局(ポスト)	7.6%

平成 28 年 1 月多摩市政世論調査

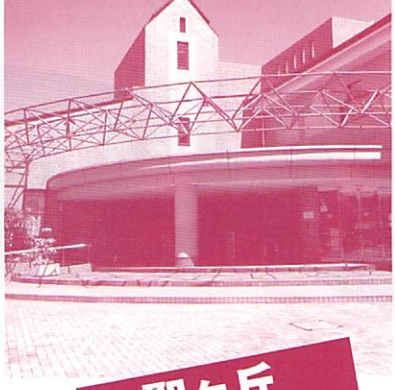
地域図書館存続のために運動している4団体の主なとりくみ

年	豊ヶ丘複合館存続の会	東寺方複合館の存続を考える会	聖ヶ丘図書館の存続を考える会	唐木田図書館の存続を考える会
2013（平成25）	第１回豊ヶ丘複合館存続の会結成 豊ヶ丘複合館の存続を求める陳情 第１回市長との懇談会（７６人）			
2014（平成26）	第２回市長との懇談会（６６人） 第３回市長との懇談会（８８人） 市議会陳情採択（署名3,673筆） 多摩市「豊ヶ丘複合館存続」を表明 第４回市長との懇談会（５７人）	東寺方図書館の存続を求める陳情 市議会陳情趣旨採択（署名2,004筆） 「東寺方複合館の存続を考える会」結成 東寺方複合館存続を求める陳情 市議会陳情趣旨採択（署名5,030筆）	「聖ヶ丘図書館のあり方を考える会」結成（４０数人） 「聖ヶ丘図書館の存続について（申し入れ）」を市長宛てに提出 聖ヶ丘図書館の廃止提案についての市当局との対話集会（１４０人）	唐木田図書館の存続を求める陳情 市議会陳情趣旨採択（署名756筆）
2015（平成27）	第５回市長との懇談会（６０人）	多摩市市長との対話集会 （７６人） 市担当者との対話集会（６９人） 「東寺方複合館の存続を考える会」結成１周年報告会（５６人）	市長との対話集会（１４７人） 聖ヶ丘図書館の存続を求める要請 （署名4,787筆） 「多摩市における地域図書館廃止計画の見直しに向けてのお願い」を教育委員会などに提出	「唐木田図書館廃止計画の撤回に関する陳情」 市議会陳情趣旨採択（署名1,674筆）
四団体共同行動 2015	多摩市議会議員立候補予定者との対話集会（予定候補10名参加・「多摩市の社会教育を考える会」と共同行動） 市長と４団体との協議・意見交換 自治推進委員会に要請し市長へ「自治推進に関する意見」提出を実現 多摩市議会議員と「地域図書館および複合施設等の存続について」懇談会（１０月２１日 市議１５名参加） 多摩市議会各会派との懇談会（改革未来、ネット、社民、自民、公明、共産）（１１月４日～１３日 市議２３名） 多摩市長へ「自治推進委員会からの「自治の推進に関する意見」についての質問状」提出 多摩市図書館協議会との懇談			
四団体共同行動 2016	多摩市教育委員会との懇談			
連絡先	代表　大橋　慶一 042-202-0246 yoshi@ohashi.name	代表　齊藤　仁 042-373-8594 terakatasonzoku@yahoo.co.jp	代表代行　厚芝　麗子 042-376-9624 r_atsushiba@hotmail.com	代表　中江　智明 042-371-3085 nakae_0912@yahoo.co.jp

「市民情報紙」発行のための募金を募ります。名義：多摩市の地域図書館の存続を願う会　代表者 厚芝麗子
ゆうちょ銀行　10190−80311811　他行から振り込む場合、店番 018- 普通 8031181


唐木田


東寺方


聖ヶ丘


豊ヶ丘

わたしたちの願いが市にとどき

地域図書館廃止から「存続」へ



多摩市は、この７～８月に【公共施設の見直し方針と行動プログラム・更新案】の市民説明会を、市内3か所で実施。その後、市内４か所での「地域説明会」が開催され、その中で、「地域図書館の存続」を確認する重要なやり取りが交わされました。地域図書館の存続を願うわたしたちの声を継続して届けていくことが大事です。

聖ヶ丘図書館
何とか存続させて行こうと内部検討している。(8/31)

唐木田図書館
市としてはコミセン内に図書館は残し、プラスアルファとして地域サービスという観点で高齢者の居場所や相談機能等を考えている。図書館本館と地域館との役割分担を考えるタイミングでどういった機能を付加していくかを考えたい。(10/5)

東寺方複合施設の図書館
大規模改修予定のH35 年までは現状通り存続。H32 年くらいから、周辺環境の変化を考慮しながら、市民のみなさんと一緒に考えていく。(10/13)

豊ヶ丘複合施設の図書館
当面存続。本館建設と図書館全体の仕組みを見直していく中で、H34 年の施設大規模改修の時期までに、市民と対話を行いながら検討を続ける。(10/22)

多摩市民による
市民の情報紙
No.2
2016年11月発行

これからも図書館のあり方を考えよう

大切な地域の公共施設の存続を求めて活動しています。

編集・発行は
4 団体共同

豊ヶ丘複合館存続の会　東寺方複合館の存続を考える会
聖ヶ丘図書館の存続を考える会　唐木田図書館の存続を考える会

いつでも どこでも だれでも 利用できる図書館を

多摩市の図書館は、予約受付や個人貸出冊数というサービスでは、同規模の全国市町村のなかでは1、2位という実績があります。貸出冊数は、地域館・拠点館で80％近く占めるというのが多摩市の特長です。

この6月、教育委員会は「**多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会**」（委員長：柳田邦男氏）を設置しました。策定委員会は、本館再構築（本館に必要な機能と環境）及び基本構想（地域館・拠点館のあり方、図書館ネットワーク）について検討しようというものです。そして、市民団体、図書館関係者、市の行政関係者など広くヒアリング（情報提示・意見交換）を行い、来年1月初頭には基本構想（案）をまとめる予定です。

これまでの実績や特長、ヒアリングが活かされた「構想」の策定となるよう、見守り、意見を表明していきましょう。

地域館が生きる図書館ネットワークを《策定委員会ヒアリング》

市民団体ヒアリングから

●中央館を補完する地域館ではなくて、地域館を支援する中央館、という図書館システムでありたい。
●嘱託職員の待遇について留意してほしい。専門性が育つしくみも考えたい。
●利用者懇談会を図書館地域館別に定期的に開きたい。
●唐木田図書館を利用しているが、市の直営に戻してほしい。

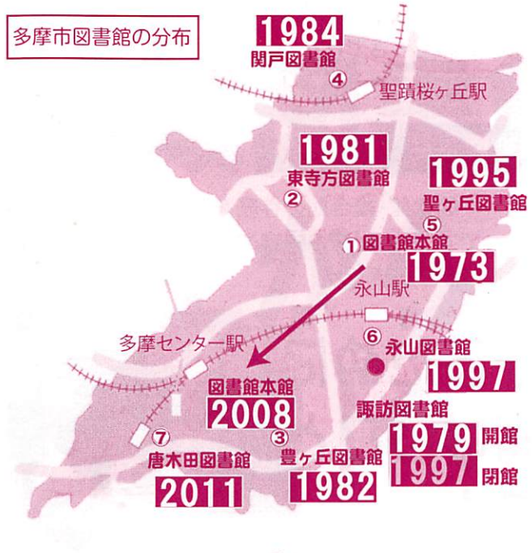
図書館職員研究会ヒアリングから

●地域館が多摩市の良いところだと思う。再編整備の流れで閉館していくかもしれないと諦めていたが、地域密着が図書館の大切な要素だと思う。
●「日常」使いやすさ。安心して日課のように毎日通える。子どももお年寄りも足を運べる。「近さ」が必要。こまめに通うことにより、色々な本に触れ人生の糧を得る、視野を広げる。
●地域館の存在はデータだけでは計り知れない。本を介して人と人のつながりが求められている。地域の環境（新たな図書館）が変化しても地域館は「心のふるさと」の役割を担っていかなければならないと思う。高齢者にとって身近にある生涯学習とコミュニケーションを得る場所であると思うので、この2点は求め続けられる。

＊策定委員会
が開かれています
第6回：11月20日
第7回：1月7日（2017年）
（詳細は、図書館ホームページ）
傍聴し、審議を見守りましょう。



多摩市は、地域図書館を大切にしてきた



＊基本構想原案
が示されます
▼市民意見交換フォーラム
12/3（土）PM6:30より
永山ベルブホールにて開催
▼パブリックコメント募集
11/26（土）～12/16（金）
意見を表明しましょう。

多摩市の図書館は、1973年に市役所隣りのやまばとホール、公民館と複合で開館し、翌年には自動車図書館「やまばと号」が運行されはじめました。児童サービスを大事にし、東寺方、豊ヶ丘、関戸、聖ヶ丘、永山、唐木田の順に整ってきた7館体制は左の地図のとおりです。

中央図書館施設計画の検討は、1981年の第2次多摩市総合計画で中央図書館と7地域の8館構想が計画されてからはじまりました。

1990年に多摩市は「多摩市立中央図書館基礎調査報告書」を出しました。ここでは、中央図書館の建設は緊急を要するとし、その第1の理由に地域図書館のサポートをあげています。そして、「多摩市に図書館があるというのは、市の中央に一つの図書館という建物が存在することではなく、多摩市の市民全体にサービスがゆきわたるようになっていること」だと言っています。

この報告書の後も、館長名で発刊された中央図書館建設に向けての構想案（1992）や、図書館協議会の中央図書館機能およびその整備のあり方についての答申（2010）で地域館のバックアップやつながりが謳われています。ところが、2013年の「行動プログラム」では、地域館4館を廃止する3館構想に変えられてしまいました。

こうした意見が積み重ねられていたのになぜ、2013年「行動プログラム」策定時に3館構想が打ち出されてきたのでしょうか。

「施設の配置や機能の転換」ってなに？
まだまだ大きい行政とのギャップ

行政の提案		私たちの懸念・要望
聖ヶ丘図書館・唐木田図書館		
・図書館全体の仕組みを見直す中で必要な図書館サービスを精査しながら残していきます。 ・高齢者の居場所や相談機能等として、地域包括支援センター等の併設を検討します。	⇔	今後ますます大切さを増す地域包括支援センターを、地域館の蔵書の一部を本館に集中させ、空いたスペースに設置で、ほんとうに地域住民の暮らしに役立つのか、ひろく市民の意見を聞くべきではないでしょうか。
豊ヶ丘図書館・東寺方図書館		
それぞれ6年後と7年後の大規模改修の時期まで市民と対話を行いながら検討を続ける。	⇔	図書館・複合館の存続を明確に打ち出すべきです。サービスの内容や運営体制は市民の声を生かすべきです。

多摩市は「市民と話し合って」というが…

大切な施設を守るために私たちの声を届けることがますます重要に！



多摩市の最高規範の自治基本条例にもとづき、地域図書館・複合館を残したいという市民の意思を受け止めてください。



地域図書館・複合館存続へ——これまでの経過

2013年　11月に「公共施設の見直し方針と行動プログラム」が策定される。図書館本館の整備にあわせ、唐木田・聖ヶ丘図書館の廃止、東寺方図書館は（仮称）和田・東寺方コミュニティセンターの建設に合わせて、東寺方複合施設とともに廃止されることが示される。豊ヶ丘複合施設は平成34年度に建物を廃止することが示される。

2013年　「豊ヶ丘複合館存続の会」が結成される。

2014年　「東寺方複合館の存続を考える会」、「唐木田図書館の存続を考える会」、「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」が結成される。

・4団体が陳情や要請署名を15000筆以上集約し、市へ提出した。

連絡先	豊ヶ丘複合館存続の会	東寺方複合館の存続を考える会	聖ヶ丘図書館の存続を考える会	唐木田図書館の存続を考える会
	代表　大橋 慶一 042-202-0246 yoshi@ohashi.name	代表　齊藤 仁 042-373-8594 terakatasonzoku@yahoo.co.jp	代表代行　厚芝 麗子 042-376-9624 r_atsushiba@hotmail.com	代表　中江 智明 042-371-3085 nakae_0912@yahoo.co.jp

「市民情報紙」発行のための募金を募ります。名義：多摩市の地域図書館の存続を願う会　代表者 厚芝麗子
ゆうちょ銀行　10190−80311811　他行から振り込む場合、店番 018- 普通 8031181

利用者、 職員、 ボランティアみんなで
大切に育ててきた東寺方複合館は
ただの施設ではありません。 地域の宝です。
落川在住　Hさん



東寺方複合館 利用者の声



公園で遊ぶ子どもの姿、
行事 （お祭りや餅つきなど） のにぎわい、
夕方列をなして帰る姿、 など
元気な子供たちに思わず頬がゆるみます。
どんなに楽しみと、 落ち着きを与えてくれることか。
今の生活に絶対に必要なところです。
東寺方在住　Iさん

小学生になってからはひとりで図書館に行きます。
わたしは本が大好きだから、 毎日本を読みたいです。
これからもずっと本をさがしに行きたいな。
桜ヶ丘在住　Mちゃん





バス停からすぐで便利な複合館。 私は3階のお風呂が大好きです。
湯船で足をのばしゆっくり温まり、 ささやかな幸せを味わう場所。
後でお弁当を食べながらのおしゃべりもとても楽しい。
お風呂に入るのが第一の喜びです。
百草団地　Nさん

3階の市民ホールは 「小さなおはなし会」 で利用しています。
道路を渡れば総合体育館があり文武両道！
こんな良い環境は他にはありません。
ず～っとあって欲しい施設です。
桜ヶ丘在住　Kさん





老人福祉館では毎月ボランティアの手による昼食会がひらかれ、
独り暮らしの方や男性にも大変よろこばれています。
漬け物の交換があったり、 地域の友人の交流の場となっています。
東寺方在住　Oさん

コーラスで楽しく使っています♪♪♪ 高齢者でも行きやすい場所です。
桜ヶ丘在住　Tさん

東寺方複合館は

年間利用者 （H26年度）
10万2152人も！
＊多摩市施設白書（H28発行）より

改修すれば…
20～30年使える！
＊H28.3.4 市議会での市側答弁より



みんなだいすき！
東寺方複合館

わたしたちの願いが市にとどき…

東寺方複合館は

廃止 から **當存続へ！**

平成29年度廃止
取り壊し種地に

大規模改修予定の平成35年度までは現状通り存続。それまでの間、周辺環境の変化を考慮しながら、市民のみなさんと一緒に考えていく。

多摩市は平成25年に「多摩市公共施設の見直しプログラム」を策定し、東寺方複合館を平成29年度に廃止する方針を提示しました。私たちは、市議会への陳情をはじめ、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田の地域の方々と一緒に存続を求める様々な活動を展開してきました。

平成28年10月13日に、東寺方市民ホールで多摩市の説明会が開催されて更新内容の説明があり、12月12日にはプログラムの更新が発表されました。

地域コミュニティになくてはならない「東寺方複合館」。平成35年度に向けて、私たち地域住民の利用をより高め、みんなの声をさらに大きく市へとどけ、存続させていきましょう。

東寺方複合館の存続を考える会
齊藤 仁
藤井 栄次（東寺方自治会会長）

会員募集中！
入会ご希望の方は
こちらへご連絡下さい。

連絡先：042-373-8594
メール：terakatasonzoku@yahoo.co.jp
ブログ：http://m.blogs.yahoo.co.jp/terakatasonzoku

2017.2

東寺方複合館存続を求める私達の主張

●「財政面の理由で廃止」は納得できません。

地域の多くの人たちが利用しており、年齢を超えて親しまれ必要とされています。より良く生きていくための大切な施設です。

●児童館の廃止によって、学童期の子を持つ親に与える不安ははかり知れないものがあります。

「児童館がなくなったらどこへいけばいいの？」の声は切実です。安心安全であり、専門職の大人の目があり、集団・異年齢の交流も自然と生まれています。子どもが健康に健全に育つ場を奪ってはなりません。また、学齢期以前の取り組みも盛んで、若い親のよりどころや育ちの場でもあります。

●子どもや高齢者が歩いて行けるところに図書館があることが重要です。

東寺方図書館を拠点とした二小、東寺方小の読み聞かせや学校教育の場としての役割は、他に代えることはできません。東寺方図書館は地域におけるその役割と目的を持っています。

●市民ホール、老人福祉館は、サークルや憩いの場として多くの人に利用されています。

住み慣れた知っている場所で親しい仲間と交流することは、特に高齢者には何にも代えられない生き甲斐です。無理なく歩いて行けるところに交流の場があることが重要です。複合館がなくなることで、長年にわたって築いてきた貴重な地域とのつながりが消えてしまいます。



みんなだいすき！
東寺方複合館

● これまでの活動

2013 年 10 月 ・「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」で H29 年度に東寺方複合館の廃止発表
2014 年 8 月 ・「東寺方図書館の存続を求める陳情」
10 月 ・市議会本会議（趣旨採択）（署名総計 2,004 筆）陳情報告会
11 月 ・「東寺方複合館の存続を考える会」結成
・「東寺方複合館存続を求める陳情」（東寺方自治会と共同で運動始める）
12 月 ・市議会本会議（趣旨採択）（署名総計 5,030 筆）
・ブログ開設、メールで意見、要求の受付
2015 年 1 月 ・「市長への質問状提出」（多摩市秘書課）
・多摩市担当者（市長）との対話集会 (76 名)
2 月 ・多摩市担当者との対話集会（69 名）
3 月 ・青少協（東寺方小）で存続をアピール ・標語ポスター作成、掲示
4 月 ・東寺方、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田（4 団体）の図書館存続を求める会との共同行動始まる
・多摩市議会議員立候補予定者との対話集会（4 団体）
6 月 ・自治推進委員会へ「多摩市自治基本条例の遵守を求める要請」を提出（4 団体）
8 月 ・市長と協議・意見交換（4 団体）
・自治推進委員会が市長へ「自治推進に関する意見」を提出
・青少協（第二小）で存続をアピール
10 月 ・多摩市議会議員と懇談会（議員 15 名参加）（4 団体）
11 月 ・多摩市議会全会派との懇談（合計 23 名の議員と懇談）（4 団体）
・結成 1 周年 経過報告会（参加者数 56 名（市議 3 名））
2016 年 2 月 ・青少協（東寺方小）で存続をアピール
4 月 ・市長への質問状提出、多摩市教育委員会との懇談会（4 団体）、東寺方、並木それぞれの自治会総会で説明
5 月 ・市民情報紙№1 作成、配布（4 団体）
6 月 ・多摩市担当者と東寺方複合館存続を考える会との懇談
10 月 ・行動プログラム更新について市の説明会（東寺方市民ホール）
11 月 ・市民情報紙№2 作成、配布（4 団体）
12 月 ・行動プログラム更新（平成 35 年度まで存続決定）

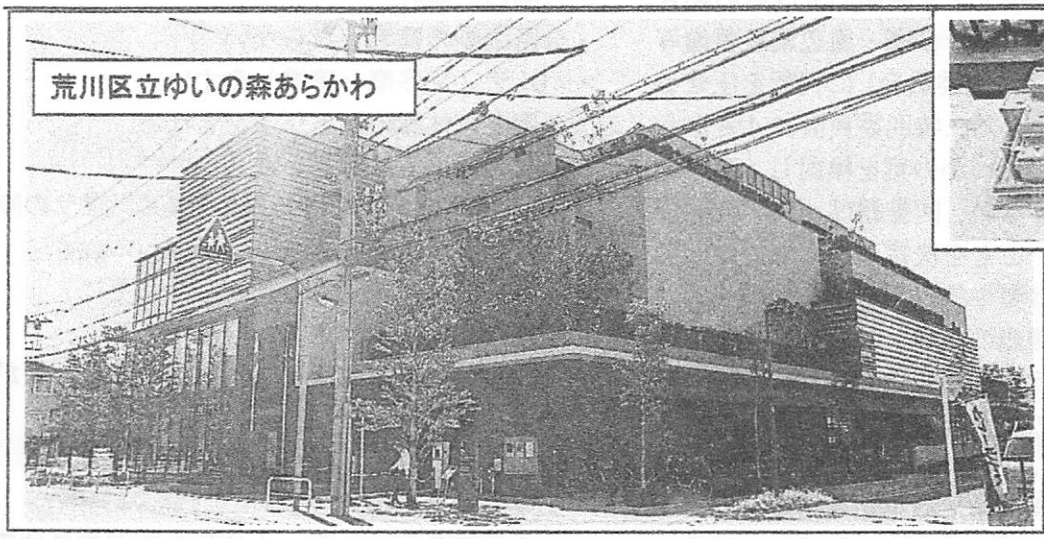


＊4 団体とは以下 4 つの団体です
豊ヶ丘複合館存続の会／東寺方複合館の存続を考える会／聖ヶ丘図書館の存続を考える会／唐木田図書館の存続を考える会

多摩市に中央図書館をつくる会ニュース

NO.６７　２０１７年１２月２０日発行

代表　青木洋子　多摩市鶴牧３－１７－５－４０５
TEL・FAX０４２－３７１－３７５７
E－mail ; yy.aoki@nifty.com


荒川区立ゆいの森あらかわ


外観模型


えほん館


北区中央図書館（赤レンガ図書館）


赤レンガ側


北区の部屋

図書館の風景　東京都区部の中央図書館を訪ねて！！

2017（平成29）年9月29日(金)に、東京都区部の荒川区と北区の中央図書館を訪問しました。

荒川区は2017年3月開館した新しい施設で「荒川区立ゆいの森あらかわ」といい“中央図書館”、“吉村昭記念文学館”、“ゆいの森子どもひろば”の三つの機能のある複合施設です。

「ゆいの森あらかわ」は、延床面積約10,900㎡、蔵書予定数60万冊です。交通は、都電荒川線「荒川二丁目（ゆいの森あらかわ前）」徒歩1分、東京メトロ及び京成線「町屋駅」徒歩8分。この他「南千住駅西口」よりコミュニティバス「さくら」があり、土日祝日には施設前に停車します。

北区立中央図書館は2008（平成20）年6月に開館した“赤レンガ図書館”と親しまれ、延床面積6,165.25㎡、図書の最大所蔵可能数は50万冊の図書館です。交通は、王寺駅（JR京浜東北線、東京メトロ東西線）、王寺駅前（都電荒川線）より徒歩15分。JR王寺駅より、コミュニティバスが出ており「中央図書館」バス停下車。JR埼京線の十条駅から徒歩12分。こちらは、路線バス「王寺駅行」で「南橋」バス停下車徒歩3分。JR京浜東北線の東十条駅からは、徒歩12分ということです。

両区それぞれ特徴のあるとても魅力的な中央図書館を運営し、交通の便もよく、区民は充実した中央図書館サービスを受けていてうらやましい限りでした。

（詳しくは本文参照）写真・文責　小荒井　順

■遅れていた図書館本館再整備の基本計画策定が、動き出すことになりました！

【行政の動き、その他】

＜本館再整備の動き＞

図書館本館再整備については、2017年３月に「多摩市立図書館本館再構築基本構想」が策定されましたが、３月議会で基本計画策定の予算が承認されず、パルテノン多摩の大改修の動きと連動して「パルテノン多摩・周辺施設整備等特別委員会」（以下特別委員会）に判断を任せることになっていました。特別委員会は４月から調査費を使っていくつかの案を検討し、市庁舎整備とは連動させない、図書館はパルテノン多摩とは合築しないことを決定しました。そして特に１０月以降は集中的に会を重ね、パルテノン多摩大改修の機能の検討と、図書館本館再整備用地の検討が行われてきました。

１１月２０日の特別委員会では、原案である桜美林大学用地との土地交換による本館再整備はしないが、現本館用地を定期借地する形での小中一貫校の整備は認める方向となりました。そこで本館再整備用地として候補地になっているパルテノン多摩西側駐車場（A案）以外に、公園内の新たな候補地として駐車場の更に西側のクロスガーデン横（B案）が提案されました。１１月２８日の特別委員会資料の評価によると

【西側駐車場】（A案）

- 南側に園路とよう壁があるため、公園と一体感があるプランとならない
- 細長い建物となり使いづらいプランとなる
- 図書館利用者が増えるため、駐車場を１階に再構築する必要がある
- 解体工事のための工期が必要
- 駐車場の解体・再構築により、事業認可の再協議でパルテノン多摩の改修が遅れる可能性あり
- 駅から４５０ｍ
- 工事費約４３億円（駐車場1500㎡の場合）
  約４８億円（駐車場3000㎡の場合）

【西側駐車場の更に西側】（B案）

候補地として以下の条件に合致するか

- 新たに用地取得をしない
- 建設許可のための接道
- アカデミーヒルズ東側より駅に近い
- 公園内に建設
- 公園機能の障害とならない
- パルテノン多摩と連携しやすい
- 公園と一体感のあるプランとなる
- 図書の搬出入に障害とならない
- パルテノン多摩の電気・給水等インフラの障害とならない

以上を検討し合致すると判断した。更に

- 工事用車両等の出入りが容易である
- 既存の駐車場を兼用でき効率的な施設利用ができる
- 駅から８００ｍ
- 工事費約３８億円

１２月７日、１１日、１８日の特別委員会では候補地の検討も含めて、予備費として計上されていた基本計画策定の予算８００万円が補正予算として承認され、基本計画策定委員会を開催できることになりました。

策定委員会は2018年２月中旬～９月初旬までの間に７回予定され、そのうち２回は先進的な図書館視察、市民公募も含むとなっています。また、策定委員会開催の前に市民団体、企業等ともヒアリングを行う予定で、市民参加型学習会方式とすると説明されました。候補地はまだ決まっていません。それはなぜかと言うと、この間の経過をまだ市民に説明広報していないので、市と議会が共同で説明会を行うよう意見が出て、１月１０日１９時～市民説明会が行われる予定です。

桜美林大学から土地交換の要請があったことで基本構想策定が始まり、今に至る動きの中で、桜美林大学に配慮するより、市民に配慮するのが本筋ではないかという意見が委員会内部に根強くあり、行政の事業の進め方に対して不信感があるのは残念です。行政と市民が対立するのではなく、一緒に歩むような市民協働を実現するには、双方にまだ学習が必要なのではないでしょうか。

図書館再整備事業を共に経験しながら、みんなで「市民の図書館」を実現しましょう。

＜目次＞

- 図書館の風景　荒川区・北区立中央図書館・1ｐ
- 行政の動き・その他　・・・・・・・・・・2ｐ
- 荒川区立「ゆいの森あらかわ」見学記・3～11ｐ
- 赤レンガの北区立中央図書館見学記・12～18ｐ
- 連続講座第１回概要報告＜再掲＞・・19～20ｐ

図書館見学会

2017年9月29日(金)　参加者7名

2017年3月に新たに開館し、多摩市立図書館本館再構築策定委員会などでしばしば話題になっている荒川区立「ゆいの森あらかわ」と、中央図書館に地域資料専門員を置いて積極的に地域資料の保存・活用・情報発信をしている北区立中央図書館の2館を見学しました。両館の移動は、ちょうど東京に唯一残る都電荒川線が使えて、思いがけないお楽しみも味わえた見学会となりました。

見学場所：午前10 時～　荒川区立「ゆいの森あらかわ」

午後2時～　北区立中央図書館

荒川区立「ゆいの森あらかわ」見学記

1．荒川区の概況

面積…10.16 ㎢　(多摩市21.01 ㎢)

人口…約21.4万人（多摩市14.8万人）

2．「ゆいの森あらかわ」　開館：2017年3月26日　京成線・東京メトロ/町屋駅から徒歩8分

敷地面積：約4,100 ㎡　延床面積：約10,900 ㎡　総工費：約90億円(うち建物約58億5千万円)

構造：鉄筋コンクリート造（免震）地上5階、地下1階　駐車場：12台、駐輪場：370台

「中央図書館」「吉村昭記念文学館」「ゆいの森子どもひろば」が一体となった、赤ちゃんから高齢者まですべての世代が利用できる施設。利用者が自ら学び体験し、人と人が交流できる地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指してつくられた。災害時の帰宅困難者受け入れや、避難所としても活用できるよう免震構造を採用、発電機や備蓄倉庫を備え、隣接する防災広場の地下には防火水槽を設置。

「ゆいの森あらかわ」名誉館長は作家の津村節子さん(吉村昭氏夫人)

◉荒川区は、かなり以前から「読書のまちあらかわ」を推進、小中学校図書館にも力を入れ2005年度から学校司書配置、2008年度には「柳田邦男絵本大賞」を創設。また松尾芭蕉をはじめ俳句ゆかりのまちとして2015年「荒川区俳句のまち」を宣言し、俳句の魅力を次代につなぐ活動をしている。そんな背景が館内あちこちに見られる。

◉5階建だが、建物中央部にある5つの2層吹き抜けを1層ずつずらした設計で、各エリアがゆるやかに繋がっている。

1階：エントランスホール，総合カウンター，おはなしの部屋，ゆいの森ホール(使ってない時は閲覧席として開放)，遊びラウンジ，えほん館(3万冊)，ベビーステーション，親子の飲食スペース*，託児室（図書館利用登録している区民の子のみ。有料），子どもてらす*，障がい者サービスコーナー，大活字本，交流都市・幸せリーグコーナー，カフェ

2階：児童書コーナー，ティーンズコーナー．学びラウンジ，ワークショップルーム(利用のない時は閲覧席として開放)，コミュニティブリッジ(フリースペース)*，吉村昭記念文学館（2~3階）

3階：一般書，美術芸術コーナー，現代俳句センター，CD/DVD，企画展示室，多目的室，屋外テラス*

4階：調べもの，専門書，ビジネス支援コーナー，閲覧室，研究室，屋外テラス3か所*

5階：学習室，研修室，コミュニティラウンジ*，屋外テラス*　(*：軽食可スペース)

3．図書館　　区内に図書館５館と２サービスステーション

1）沿革：1938年(昭13) 前身の東京市荒川図書館設立(三河島)、その後1950年（昭25）に区に移管され区立荒川図書館になる。1962年（昭37）新図書館(荒川）落成。
1963年（昭38）木曜レコードコンサート開始。16ミリフィルムなど視聴覚資料の貸出開始。
「ゆいの森あらかわ」開館まで中央図書館としての役割は南千住図書館だったが、開館後は「ゆいの森あらかわ」が中央図書館として稼働している。

2）ゆいの森あらかわ
開館時間　9：30～20：30（全日）
休館日　毎月第3木曜日・年末年始・特別整理日他
蔵書規模数　約60万冊（開架30万冊、閉架30万冊）　座席：約800席

＜資料・貸出状況＞
◉ 利用者登録は、本人及び住所等確認できるものを持参のうえ来館しカウンターで手続きすれば全国誰でもできる。
◉ 多文化サービスの取組…外国人住民　約18,000人
外国語の本(英語，ハングル，中国語ほか)…約12,000冊
外国語のおはなし会　23回・参加者292人（2015年度）…外国語ボランティアの協力

平成２８年度　所蔵資料数（平成29年3月31日現在）　（単位:点）

	図書館					サービスステーション		
	ゆいの森(荒川)	南千住	尾久	町屋	日暮里	汐入	冠新道	合計
一般書	260,183	92,324	76,956	83,199	72,149	7,775	6,312	598,898
児童書	45,803	30,674	22,937	25,758	27,436	5,398	4,946	162,952
地域行政資料	27,874	4,819	1,602	1,613	2,273	153	106	38,440
HS資料(ハンディキャップサービス)	2,806	208	26	22	29	0	0	3,091
雑誌	12,926	11,626	6,977	7,858	6,751	469	524	47,131
蔵書点数	349,592	139,651	108,498	118,450	108,638	13,795	11,888	850,512
雑誌（点）	410	232	165	168	168	29	32	1,204
新聞（種）	48	11	11	11	11	0	0	92
CD	10,049	12,018	7,636	7,393	7,630	0	0	44,726
カセットテープ	0	2,070	0	0	0	0	0	2,070
ビデオテープ	0	1,905	0	0	0	0	0	1,905
DVD	299	1,715	0	0	0	0	0	2,014
１６ミリフィルム	0	936	0	0	0	0	0	936
学校教育用ビデオ・DVD	0	768	0	0	0	0	0	768
視聴覚資料所蔵点数	10,348	19,412	7,636	7,393	7,630	0	0	52,419

（図書館HP速報版による）

＜図書館運営＞

図書館は区の直営で区長部局に属する…市民ニーズの多様化や、区役所の他の部署や地域との連携を強化しながら区政全体で取り組む必要を考え、教育委員会ではなく生涯学習課などとともに区長部局の地域文化スポーツ部に所属。

図書館は、地域文化スポーツ部地域図書館課とゆいの森課に分かれている。

館長会：月２回、合同選択会議：週１回、図書館協議会は無い。

①職員体制（ゆいの森）

職員：サービス係45名　〔係長２名、常勤職員６名、非常勤職員37名(司書)〕

非常勤職員…専門的知識を有する非常勤職員を、常勤職員と同様に区政の第一線を担う職員であると明確に位置づけ、職責、待遇、研修等の充実に取り組んでいる。

非常勤の職階は６区分（上級総括・総括・上級主任・主任・上級一般・一般）。

②運営面・施設面の特色

- 建物…付近は住宅などが密集する地域。５階建だが圧迫感を抑えるため、外観は箱を積み上げたように分節化し、屋外テラスには緑を植えている。近隣居住者への配慮、目隠しを兼ねる。木が成長したら緑陰読書席になる（テラス・庭12か所）。
- 館内は全体にゆったりしていて、あちこちに読書のためのスペースがある（約800席）。
  中央部の17mもある吹き抜け部分をぐるりと囲む閲覧席、壁は透明性のある仕切り板なので圧迫感がなく、ゆっくり読書できる雰囲気。
- １～２階はある程度の音は許されるスペース、３～５階は一般書・専門書など静かに利用するスペースと分けている。
- エントランスホール…かなり広く、テーマ展示や司書お薦めの本などの展示スペースを立体的にゆったり確保している。
- ゆいの森ホール…絵本に囲まれたスペースで、ホールとして使っていない時は閲覧席として開放。内側三方の壁面全体に絵本が市松模様に飾ってある。ここの絵本はこの部屋専用で貸出はしない。高いところの絵本は安全上固定している。
- ２階 学びラウンジ…小中学生を中心とした居場所にもなる。
- ２階 ティーンズコーナー…10代向け図書の充実と、仲間で話をしながら学習等ができるスペースを備えている。
- ２階 コミュニティブリッジ…椅子・テーブルを自由に動かせる。グループ活動や打ち合わせ等の場所としても活用できる。
- ２~３階「吉村昭記念文学館」…荒川区生まれの吉村氏の生涯、作品に描かれた荒川や、取材で訪れた全国各地の紹介など、氏の足跡をたどる。書斎も再現。
- ３階 現代俳句センター…国内外の俳句資料を書架に配置している。
- ３階 企画展示室…文学館の展示のほか、図書館・子どもひろばに関係した展示など。
- ４階 調べもの支援カウンター…デスクはあるが今のところ職員配置はできていない。
- ５階 コミュニティラウンジ…椅子・テーブルを自由に組み合わせて使える。
- 学習席と研究席の一部は図書館ホームページから予約できる（区内在住・在勤の人が対象）。
- 各階に無線ＬＡＮ完備
- 「柳田邦男絵本大賞」…絵本を読んで出会った感動を柳田氏へ宛てた手紙形式で募集。一般の部と子どもの部がある。（募集期間約２か月半）

≪ゆいの森あらかわ≫　見学感想

✤・館内に子どものひろばがあり、その隣にえほん館があるので、遊びながら学び、学びながら遊べて、自分たちの子育ての時にこういう施設があればよかったのにと思わせられた。

・子どものひろばに隣接して、ホールの階段下を利用したおはなしの部屋があって、空間を上手く利用していると思った。部屋の大きさは少し狭くて閉塞感はあるのだが、おはなしの世界に入り込むしっとりとしたお話し会には向いていると思う。

・この施設を利用する時だけではなく、買い物などでも、乳幼児の一時預かりを有料でしてくれる託児施設
があり、それはとてもありがたいのだが、利用時間などには改善の余地があると思った。

・３階に俳句のコーナーがあり、いろいろな結社で出された俳句雑誌など、俳句に関する書籍が網羅されて
いた。多摩市に中央図書館をつくる場合、こういうふうに何かに特化した収集をすることで、図書館の特
色を出すことが出来ると思った。

✤・荒川区は区部では唯一直営の図書館であるが、教育委員会ではなく、市長部局に属していると聞き、市長
部局に属している子ども広場など区全体の事業として連携はしやすいかもしれないが、教育の自立という理念や社会教育法に則った図書館という位置づけはどうなのか、少し疑問に思った。

・６月に見学した民間委託の「大和市シリウス」と比較して、直営の良さがあちらこちらに感じられる図書館である。区の構想を具体的な形にしていくために、プロポーザル方式で図書館設計に優れた業者を選び、専門性のある職員が設計士と直接やりとりしながら進めてきたからと想像できる。具体的には、建物のデザインや内装・間取りが利用者目線できめ細かく配慮されている。子どもひろばも託児を除き無料で利用できる。
ＰＦＩやＰＰＰ方式では民間業者の利益が優先され、今流行のガラス多用の空間（見栄えはよいが）と、本当に必要かが疑問な高額な図書館機器が導入され、肝心の練られた資料排架計画や資料費確保が後回しになりかねないと思う。

・建設までの市民の関わりが見えないと思った。

✤「ゆいの森あらかわ」については、2016年６月の全国リレーシンポジウム「知の地域づくりを考える in 多摩市」で、柳田邦男氏の報告で初めて知りました。あの折、柳田氏は「えほん館」の実現についても話されました。子ども文庫に長く携わり、絵本の持つ力、魅力に感じ入るものの、私には図書館に「えほん館」を“つくる”ということに、どうしてもしっくりしないものがありました。なぜ、絵本の館が要るのだろう…。行ってみて、見てみて、私の中で「えほん館」だけが別建てのような存在になっていたことに、はっとしました。別ではなかった！

・１階、エントランス、えほん館、絵本に囲まれたホール、階段状のホールの下のおはなしの部屋、子どもひろば、そして、２階の児童コーナー、ティーンズコーナー、ゆったりとしたながれのようにうまく継っているのを感じました。

・子どもひろばに、「託児」の部屋もあって、おとながちっちゃな子から一時開放されて図書館も利用できるのは、素敵だと思いました。

・23区中、荒川区だけが図書館直営と聞きました。どうか直営が続くようにと願いますが、区長部局にあるそうで、地域文化スポーツ部に属するとか。図書館については、地域図書館課とゆいの森課の２つの課に分かれているそうな。２つに分かれていて、中央図書館としてのゆいの森は、どうやって地域館をバックアップするのだろう。中央図書館と地域館のネットワークとしての繋がりはどうなっているのだろうと思いました。

（まとめ：鈴木久美子）

訪問：2017年8月29日(金)

写真で学ぶ！
東京都区部：荒川区立中央図書館（荒川区立ゆいの森あらかわ）



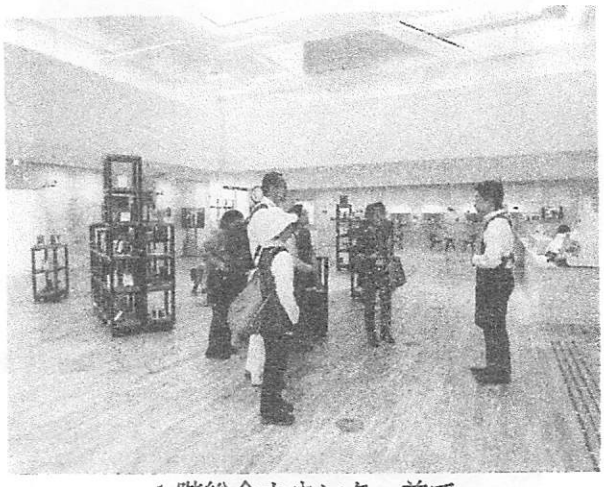
荒川区立中央図書館の入っている
「ゆいの森あらかわ」



ゆいの森あらかわ　1階入口



ゆいの森あらかわ_正面



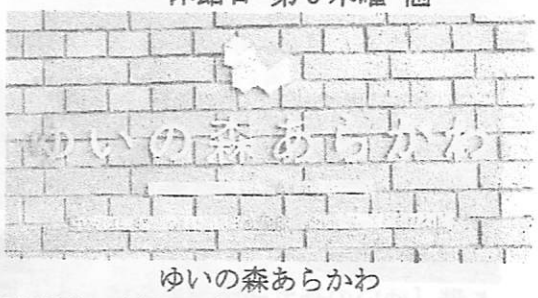
1階総合カウンター前で、
見学のスケジュールを聞く参加者
（聞いてウキウキ）



ゆいの森あらかわ
（中央図書館等）

開館：2017年3月26日
敷地面積：約4,100㎡
延床面積：約10,900㎡
蔵書予定数：60万冊

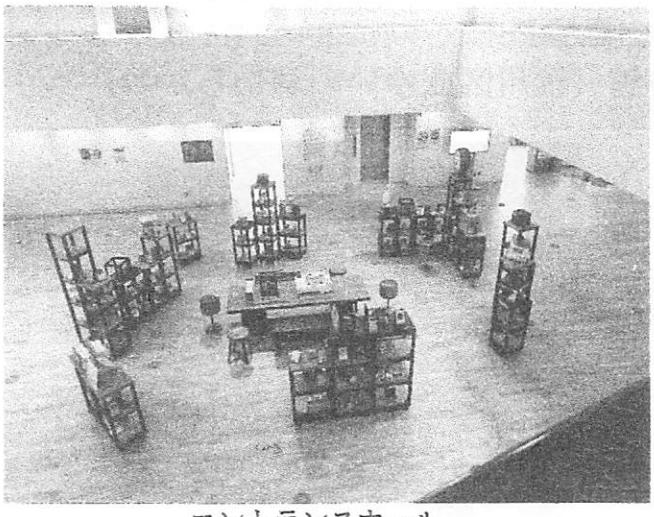
案内表示　開館時間　9:30am-8:30pm
休館日　第3木曜　他



ゆいの森あらかわ
中央図書館　吉村昭記念文学館　ゆいの森子どもひろば



1階エスカレーター脇館内案内板
見学前の説明会場のある5階へ



エントランスホール
「本と建物の模型（ゆいの森あらかわ）」の展示



5階のゆったりしたコミュニティラウンジ



見学前に施設について説明を聞く5階の研修室
左の壁面は書籍棚



机の上の「飲食可」のキューブ



5階 閉架書庫：電動スタックランナー



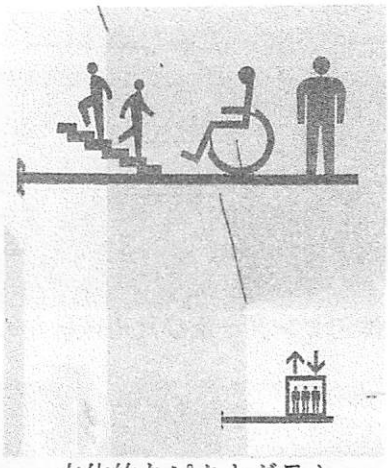
ゆいの森あらかわ5階　学習室



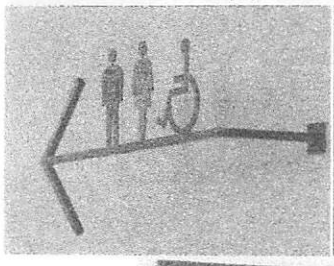
5階 閉架書庫：電動スタックランナー内部



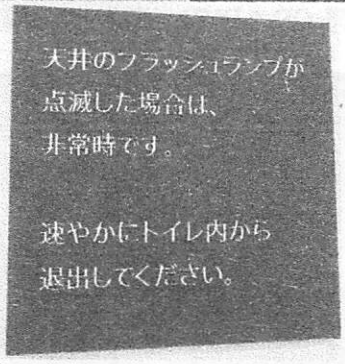
5階「ゆいの森ガーデンてらす」より眺望
・遠くにスカイツリーが見える。



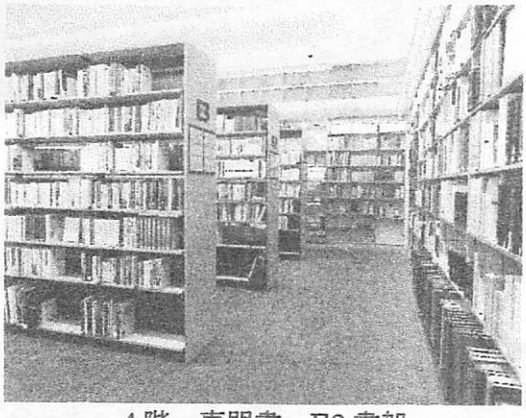
立体的なピクトグラム
廊下側に飛び出た立体的な案内表示
・階段・車椅子・男性用トイレ
・奥は「エレベーター」



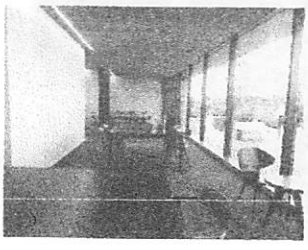
ピクトグラムは
色でも案内
・男性：青
・女性：赤
・車椅子：青



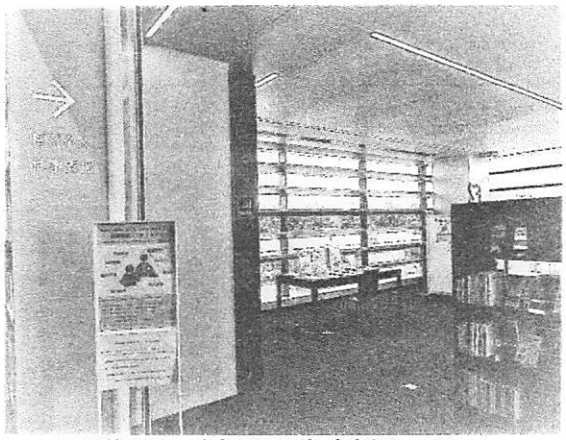
車椅子（多目的）トイレ：非常時は光でも案内



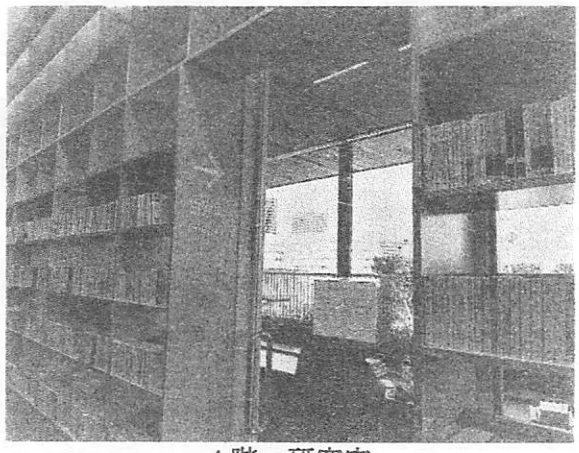
4階　専門書　E3書架



4階　閲覧室
窓側は
「香りのてらす」



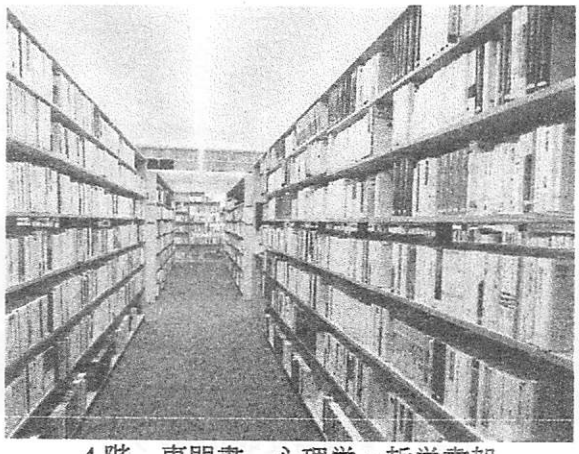
4階　ビジネス仕事支援コーナー



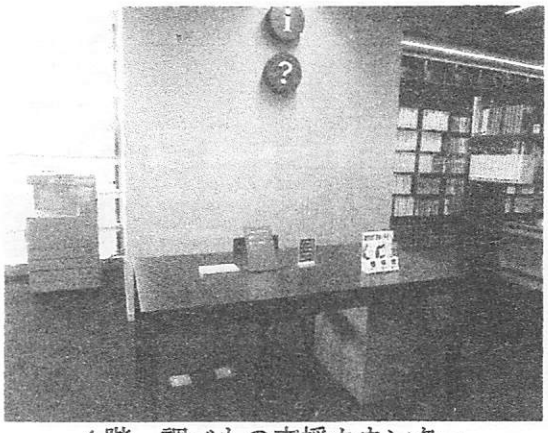
4階　研究室



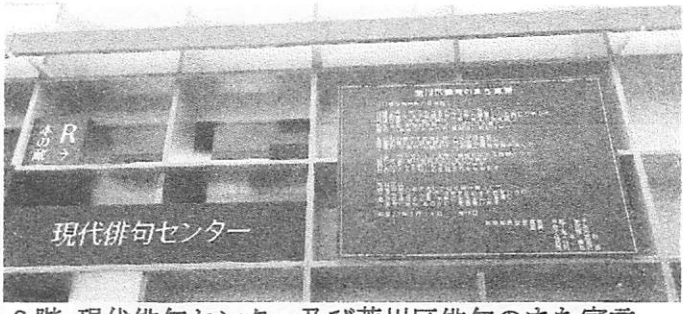
4階　研究室　窓側の「風のてらす」



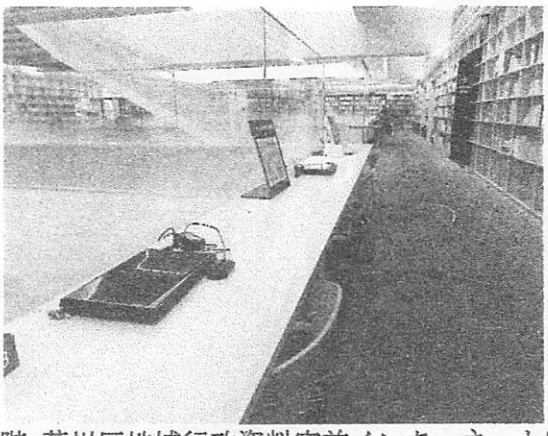
4階　専門書　心理学・哲学書架



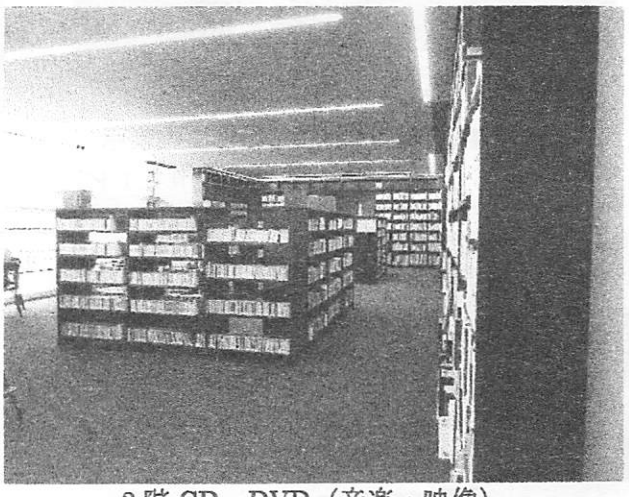
4階　調べもの支援カウンター



3階 現代俳句センター及び荒川区俳句のまち宣言



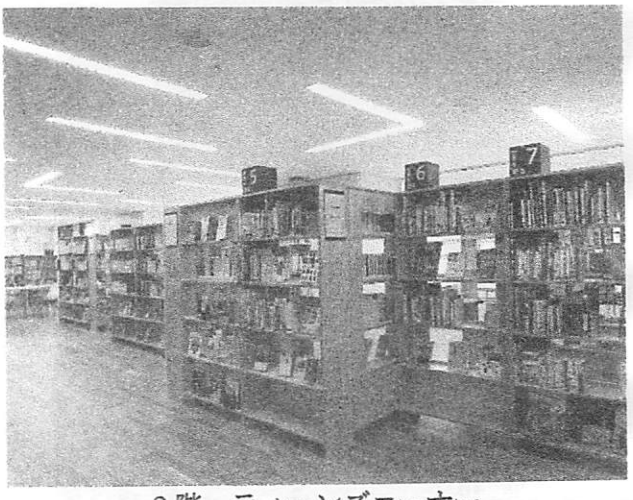
4階 荒川区地域行政資料室前インターネット席



3階 CD・DVD（音楽・映像）



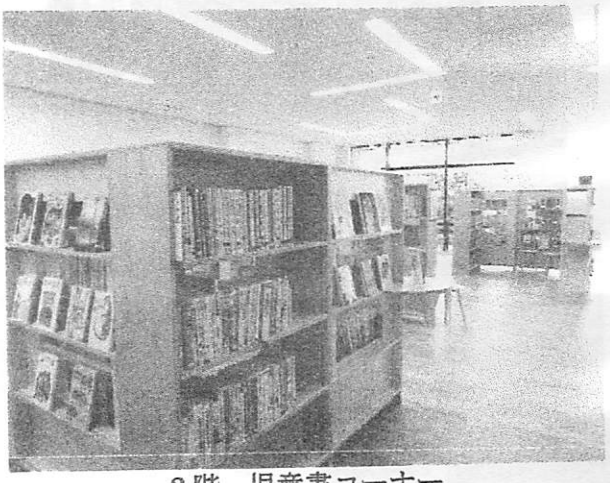
インターネット席（予約席）の案内表示



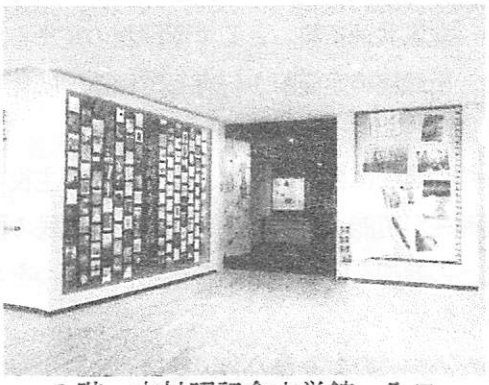
2階　ティーンズコーナー



3階　予約資料受取カウンター



2階　児童書コーナー



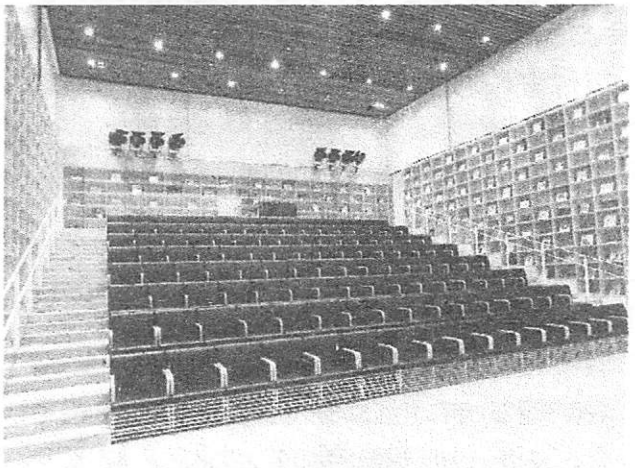
2階　吉村昭記念文学館　入口



1階 ゆいの森子どもひろば
遊びラウンジの機関車と階段・橋・滑り台



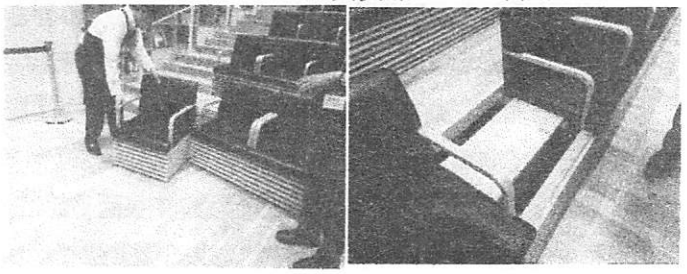
1階　えほん館カウンター



1階「ゆいの森ホール」
壁面に絵本の表紙が見えるよう展示、
イベントのない日は閲覧席として利用



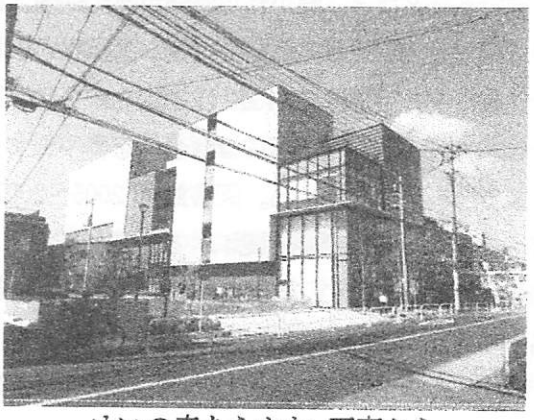
1階　えほん館「柳田邦男」氏　推薦本の書架
2008 年度より毎年“手紙にのせる絵本への思い”
「柳田邦男絵本大賞」を行っている。



最前列：車イスの方のために外せる座席



1階　交流都市・幸せリーグコーナー
交流都市として「住民の幸福実感向上を目指す
基礎自治体連合」（通称：幸せリーグ）
94 都市の紹介コーナー



ゆいの森あらかわ_西南から

写真・文責　小荒井　順

赤レンガの北区立中央図書館見学記

赤レンガ図書館の愛称があり、「区民協働」をコンセプトとして、地域資料の提供にも特色がある東京都北区立中央図書館を訪問しました。

1．北区の概況

面積…20.61 ㎢　　(多摩市 21.01 ㎢)

人口…約34.8万人（多摩市約14.9万人）

北区は、区域は南北に長く、武蔵野台地の北縁部に位置し一部地区を除き台地が広がっている。荒川・隅田川・新河岸川などの氾濫と蛇行により生じた広大な氾濫低地が分布している。JRの１１駅は都内最多の規模で、都心へのアクセスも確保されている。

「区民とともに」を基本姿勢とし、4つの重点戦略（「子ども」・かがやき戦略、「元気」・いきいき戦略、「花＊みどり」・やすらぎ戦略、「安全・安心」・快適戦略）を区政運営の主柱としている。

2．図書館

北区立図書館は東京市立王子図書館を淵源とし、1947(昭22)年の「所在地区長」への委任を受けて、1950(昭25)年に北区立王子図書館と改称して発足した。その後、1988(昭63)年の第二次北区基本計画や、2000(平12)年の北区基本計画2000で計画、事業化が図られ、2004(平16)年に「新中央図書館基本計画」が策定された。防衛施設の再編に伴い北区へ移管された東京砲兵工廠銃包製造所のうち赤レンガ棟を活用する形で、2008(平20)年6月に新北区立中央図書館として開館、現在に至っている。2017(平29)年3月には来館者数が700万人を超えた。中央図書館は、歴史的建物を保存し、随所に魅力ある図書館づくりが見られること、区民の活動と協働することを実践していることなど、開かれた姿勢が高く評価され、2011(平23)年に「日本図書館協会　図書館建築賞」を受賞。中央館を含め14館（1室）を中心に半径1㎞以内の円を描くと、区のほぼ全域をカバーする形で図書館網を敷いている。図書館は2005～2007(平17～19)年に一部の業務（窓口）を委託しており、区職員は中央館のほか、滝野川、赤羽の3館に合計62名（司書21名）を配置する。

中央館の延床面積は6,165.25㎡、蔵書収蔵可能数は50万冊、所蔵数41万冊であるが、2015(平27)年度から「北区共通資料」として所蔵館の定まらない資料と、所蔵館特定資料が併存している。閲覧席は約500席。

中央館の建設に当たっては、①利用者が主役で、長時間滞在が可能、②永く愛される、③区民の図書館活動への参加を促す「協働の拠点」の３つをコンセプトとしている。

このため床の段差をなくし、書架間のスペースを確保するなどユニバーサルデザインの採用や、雨水、太陽光、屋上緑化などの環境配慮にも意を用いている。フロア構成は概略下記であり、フロアが少なく、移動しやすい。主要な要素については、後述する。

1階：総合フロア。1～6番区のエリアに分かれ、一般書架、閲覧席、ＹＡスペースのほか、北区の部屋、対面音訳・サポート室、公開書庫、読書テラス、喫茶室を配置。2番区に隣接してドナルド・キーン・コレクションコーナーを設置。赤レンガの建物を眺望できる公園部に接している。

2階：こども図書館。おはなしのへや、子育て情報支援室。敷地に高低差があるので、一般道へアクセス可能な出入り口もある。

3階：協働のフロア。区民活動コーナー、デジタル工房室、印刷室のほか、録音室（視聴覚障碍者向け資料）、閉架書庫。

＜資料・貸出状況＞

最大収蔵可能数（基本計画段階）50万冊

2017(平29)年4月1日現在の所蔵数は一般書346千冊、児童書65千冊のほか、北区共通分3.6千冊。雑誌386点、新聞45紙、などとなっている。

1人当たりの貸出数は多摩市を上回っている。

2015(平27)年度統計	北区	多摩市
全館の貸出数	415万点	171万点
住民1人当たり貸出数	12.2冊	11.7冊
同　蔵書冊数	3.9冊	5.1冊

＜図書館運営、関係費用＞

2016(平28)年度の運営費用（予算ベース）をみると、図書館費1億円、図書・新聞・視聴覚資料購入費170百万円、電算経費111百万円、管理費686百

万円、となっており、図書購入費はこの5年間、おおむね横ばいないし微減で推移している。

＜運営面,施設面の特色＞

1．図書館ボランティア活動

「区民とともに歩む図書館委員会」は2016(平28)年度までに5期にわたる活動、提言を行ってきた。同委員会は図書館運営に区民の協働・参加・参画の視点で、施策実現に必要な提言を行うことを目的に、2005(平17)年4月に設置されたもの。

同委員会の提言で発足した「北区図書館活動区民の会」は5つの部（企画・広報、子ども、ユニバーサル、地域資料、ドナルド・キーン）で構成し、図書館と協働し、講座・講演会、おはなし会の開催、などに取り組んでいる。図書館職員より経験が豊富なメンバーもいて、活発に活動している。

2．北区の部屋

現中央図書館建設時に、行政資料センターと図書館の機能の統合を図る形で設置された。図書や展示を通し「北区のことなら何でも分かる場所」を目指している。 従来の図書資料に加え古い写真・地図・文書なども所蔵しこれらを利用したテーマ展示も行っている。また、北区史に精通した2名の地域資料専門員（非常勤）が交替勤務で北区についてのレファレンスに答えているほか、次の通り、活動の広報に努め、北区への興味関心を高める取り組みを続けている。

・初学者向けに北区を7地区に分け写真と図版で解説した『北区の歴史 はじめの一歩』を刊行。
・毎月第4火曜日「北区の歴史を学ぶ会」を開催。
・レファレンスの内容やこぼれ話を紹介する「北区の部屋だより」を毎月発行。

3．ドナルド・キーン・コレクション

・北区名誉区民で区内在住のキーン氏から寄贈を受けた図書（氏による書き込みがある）を展示し、業績を紹介するとともに、来館者の利用に供している。キーン氏も散歩の途中に立ち寄ることがあるとのことで、キーン氏の書斎のような雰囲気も醸し出している。

4．公開書庫

いわゆる開架書庫。古くなった資料、全集・叢書などのほか、開架書架にある資料に比べ「利用度は低いが、手に取って見てほしい資料」を閉架書庫で保管する前に配架している。同じスペースに新聞の縮刷版、全国電話帳、雑誌のバックナンバーに加え、地域資料として、北区史編纂時の寄贈資料（川崎・平野・加藤の3氏より）が「三文庫」として配架されている。

＜感想＞

開館から来年（平30）で10周年を迎えるが、戦災で古い資料が失われた、とされる北区にあっても、区史の編纂事業の遺産（専門員の常駐も含めて）も引き継ぐ形でのアーカイブ機能を果たす傍ら、読書推進や市民への情報提供機能、市民活動の支援機能、を複合的に実現するための工夫が随所に見られる図書館であった。また赤レンガの古い建物をうまく活用し、居心地の良い空間に仕上がっている、と（再訪だったので、改めて）感じた。なお今回は時間がなかったが、北区図書館活動区民の会、の活動ぶりも掘り下げる余地がある。再訪したい図書館の一つである。

（まとめ:大石正人）

＜参加者の感想＞

・≪地域資料専門員の言葉から≫

一般の人が図書館に求めるもの…地域資料に目を向ける人はごく少ない。理解をしてもらう努力をしないと、地域資料は見向きもされない。北区のことを知りたい人はまず図書館へ、という流れを作ろうとした。毎日借りられなくてもいいけど、何かあった時に調べたり見に来たりできる場所。議員も「北区の部屋」に信頼を寄せている。

足を運んでもらう努力…展示物・ポップ（毎月替えている）、質問箱、古文書講座、歴史講座など。

・北区の部屋の地域資料専門員の方の「努力をしないと地域資料サービスはできない――いかにこういう部屋が重要かわかってもらう努力をする。本来あるべき姿を認めてもらう。図書館に理解してもらい、

役所に理解してもらい、議員に理解してもらう」「自分のものは、自分で保存する。北区のものは北区で保存する。何かあった時、ここにある。」という言葉が、印象に残りました。誠実な日々の奮闘ぶりがよく伝わってきました。

・「北区の部屋」という地域資料室があるが、これが圧巻。またそこの担当の方がすばらしい。確たる信念を持って郷土資料や地方行政資料を収集・保存されていて、世間の無理解にもかかわらず、情熱的に仕事に取り組んでいる姿に感動した。

・「区民協働」の視点から、図書館主催のボランティア養成講座が活発で内容も充実している。例えば2016年度児童サービス(ボランティア)養成講座は、読み聞かせ初心者講座2回、ステップアップ講座4回、おはなし会ボランティア養成講座勉強会年16回など22回開かれていて、全16回の養成講座を終えた人に登録してもらい活動しているとのこと。しっかり基礎を学んだ上で実践に移す図書館の姿勢は見事。多摩市でも、きちんとした計画のもとに養成講座を開いて、関わる人を育て、レベルアップに繋げてほしいと願っている。

・市民と職員との集まりが月1回位あって、市民と協働でいろいろな講座が開かれている。また市民が活動するための部屋が用意されていて、協働の仕方が上手だと思った。

・「区民とともに歩む図書館委員会」の5期の活動、「北区図書館活動区民の会」の5つの部の活動は、ニュースやたよりをみても魅力的でした。今回は時間がなかったけれど、これらに携わる方々とも話が聞ける機会があったらいいなと思いました。

・北区の図書館運営は中央図書館と滝野川・赤羽図書館以外は職員の配置がなく窓口業務を委託しているが、その評価はどうか気になるところである。
また「図書館協議会」の代わりとも言える「区民とともに歩む図書館委員会」は要綱を見ると、「運営評価その他の図書館政策について意見を述べ、又は教育委員会に提言を行う」とされ、教育委員会の責務として「意見又は提言を尊重し、図書館運営に反映させるよう努める」とはっきりと規定している。市民公募3人以内を含む10人以内で構成されるが、参与として図書館長が任命する職員が6人参加でき意見を述べることができるとなっている。「市民協働」の仕組みとして実際にどのように機能しているのか、多摩市の図書館運営に市民意見を反映させる仕組みをどう作るのか考える上で、ぜひ知りたいと思った。

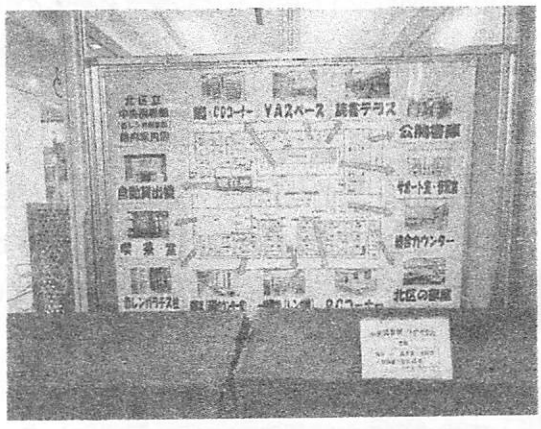


写真1：1階 入口のフロア案内図


写真2：1階より2階を見る、
支柱は赤レンガ倉庫を利用


写真3：2階「こども図書館」入口
(写真撮影：小荒井　順)

訪問：2017年8月29日(金)

写真で学ぶ！
東京都区部：北区立中央図書館（赤レンガ図書館）



北区立中央図書館
（正面は、2階の「こども図書館」入口）



中央図書館1階入口フロア案内図



1階　中央図書館　入口



総合カウンター脇より館内の赤レンガの外壁
自動貸出機　2階への階段を見る

北区立中央図書館
（赤レンガ図書館）

開館：2008（平成20）年6月28日（土）
敷地面積：5,725.19 ㎡
建築面積：2,699.21 ㎡
延床面積：6,165.25 ㎡
蔵書最大所蔵可能数：50万冊
総座席数：500席

赤レンガ倉庫は1919（大正8）年に「東京砲兵工廠銃砲製造所」の弾丸鉛身場として建設された。この倉庫を含む場所が北区に移管されたことにより、2008年「北区立中央図書館」に歴史的建造物を残すことも踏まえ有効活用された。



自動貸出機



資料検索機



一般書架２番区３類　社会科学


中央図書館赤レンガ倉庫の外壁


ドナルド・キーンコレクションコーナー内部


５番区雑誌書架より３番区一般書架を見る


中央図書館　喫茶室


６番区　開架書庫に収まらない資料を
自由に利用できる公開書庫



赤レンガ倉庫の外壁脇を通り
２階の子ども図書館への階段


北区立中央図書館内で見ることのできる
赤レンガ倉庫のラチス柱の基礎



「北区の部屋」の案内表示



2階の階段前の1階への案内



2階の階段前より1階を見る



2階　こども図書館入口



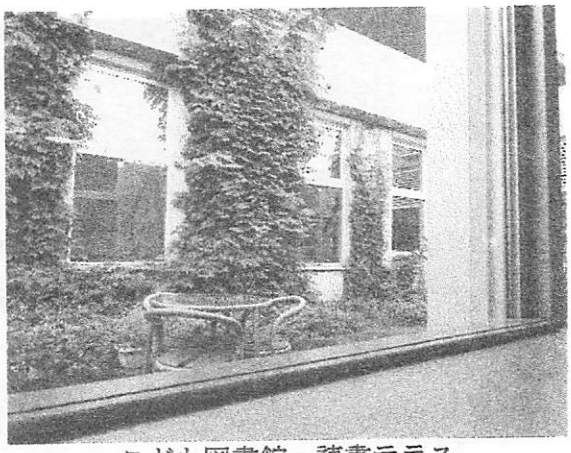
こども図書館：「読みもの」の書架



2階　こども図書館案内図



こども図書館：「読みもの」書架



こども図書館：読書テラス



こども図書館「子育て情報支援室」



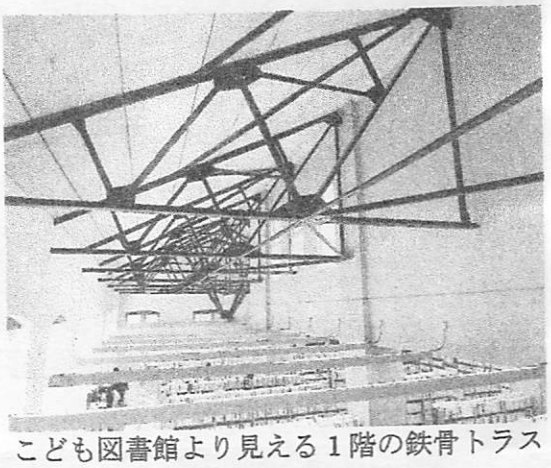
こども図書館：「えほん」の書架



こども図書館「子育て情報支援室」



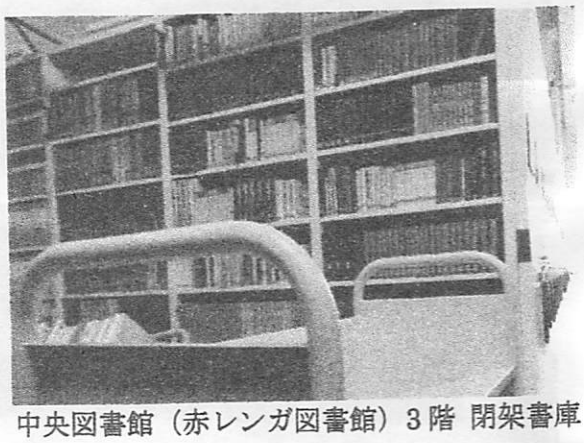
ガラスの壁の下を利用した大型えほんコーナー



こども図書館より見える１階の鉄骨トラス



ガラスの壁の下を利用した大型えほんコーナー
キャスター付きえほんボックス



中央図書館（赤レンガ図書館）３階 閉架書庫

写真・文責　小荒井　順

ニュースNO.６６ 4～5ｐ修正版再掲

■口連続講座第１回報告口■

「市民の図書館」をめざす図書館の担い手を考える－公務としての図書館員の仕事

講師：大澤正雄氏 （朝霞市立図書館・鶴ヶ島市立図書館元館長）

１．はじめに

・1959 年に練馬区の職員として採用、区の各部の担当部署にいたが、区内唯一の司書資格保有者として「ひょんなことから」図書館業務に移った。業務経験はなかったが、図問研での研究活動などを通じて得た知識を活用して運営にあたった。

・「カネと集客の図書館行政」と題された東京新聞の５月 10 日の記事を取り上げる。ここにあるのはいわゆるツタヤ図書館で、佐賀県武雄市を皮切りに、指定管理者は多くの場合全国ネットの事業会社。他の地域でやったイベント企画を他館に転用するが、賑わいの演出が最優先で、貸出しが増えすぎても困る、といった発想がベースにあったりする。練馬区も指定管理者制を入れたが、カウンターで対話する雰囲気もない。自分が職員のころは、図書館はおしゃべりして帰る場所でもあった。人間同士の触れ合いが乏しくなった。

・図書館は、例えば安倍内閣で閣僚の発言が話題になれば、その賛否にも対応した展示ができるはずだ。図書館員が市長や自館長の意向を忖度するのではなく、地域住民に向け、公僕として奉仕することこそ大切。

２．本当の図書館とは

・本来図書館は、地域住民の欲求にこたえるべきもの。多摩市立図書館の初代館長：伊藤峻氏は「図書館は人間の3つの欲求（①よりよく生きる、②よい文化に触れる、③学ぶ）を充足すべき、と表現しているが、これは学習権、憲法25条に定められた「文化の社会保障」を担う機関ということだ。

・生活保護の支給基準を巡る朝日訴訟で新聞は生活保護費で購読できない、と最高裁で敗訴になったが、その後支給基準を緩和するきっかけになった。ただ役所は文化に前向きとは言えない。例えば都立図書館は1998年の石原都政下で予算が半減した。都の財政が一般会計5兆とか特別会計含めて12兆という規模に対し、図書館費はわずか1億円。これでメトロポリスの図書館にふさわしいサービスが提供できるのか。こうした問題意識から、自分が主宰する「東京の図書館をもっとよくする会」で今回の都議選に当たり各会派にアンケートを実施した。

・図書館が担うべき「文化の社会保障の基礎」には「貸出」ないしは資料提供がある。疑問があれば、図書館で掘り下げができる、図書館は人が集う場所、本を通じた議論ができる場所でもある。図書館員自身も来館者の要求にこたえることで成長できる。

３．無料の原則

・図書館が無料なのは税金で運営されているから、という主張もある（前川恒雄、菅原峻）が、そうすると受益者負担の考えを招く。「無料」というのは国民の権利「学習権保障」の権利。その権利をまもるために住民が応分の負担を負う、という主権者意識の支えがより重要。地方財政を巡る三位一体改革のなかでも無料の原則には手を出せなかった。

４．図書館で働く職員

・公共図書館員は日常的に住民と接する自治体の職員であり、図書館は住民の生存権の文化的側面を担う。具体的には①学習権の保障のため、資料とスペースを提供、②資料に対する住民ニーズを把握、反響を作り手にも伝える、③地方自治を守り、利用者と連携して図書館運動を発展させる役割がある。

・1970 年代の練馬区・石神井図書館での障害者サービス、同平和台図書館での踊りのサークル要望への対応。90 年代埼玉県小川町での蔵を活用した図書館づくり、などの事例紹介があった。

５．図書館は館長と職員次第

・よい館長は人を育てる、市長や教育長への説得力もある。例えば愛知県内のモデルである田原市図書館は開館時の森下館長の志の高さ、に支えられた。

また人事管理について言えば、人事の民主化により職員の意欲を引き出すことが大切。（久保輝巳『図書館司書という仕事』）

具体的には①仕事の負担の平等、②能力を引き出す、③互いの人格が尊重される、④事務連絡、取り決めが全体に徹底される、ことが大切。（大澤正雄『公立図書館の経営』）職場内のミーティングも最近は実施する職場が減ったと聞いている。

・練馬区大泉図書館勤務時に、遅刻常習の若手職員に、音楽レコードのコレクション整理（地元在住のジャズ評論家からの白盤寄贈を

含む)をさせたら、見違えるほどの熱心さで取り組んだ経験もある。

(館長のリーダーシップと専門性)

・業務への深い理解と理想を語り合える資質、そして利用者との接触を通じた資料の知識や図書館サービスの知見をもちたい。例えばトラブルの起きやすい土日も出勤し、万一の場合は良い聞き役としてクレーム対応に当たる覚悟が必要。

(図書館員の心構え)

・中小レポート(中小都市における公共図書館の運営)において挙げられた、1.本が好き＝資料に精通している、2.他人との対応をいとわない。

図書館員に最低限必要な資質は①謙虚であること(資料は宝物であり、知らないことが多ければ、自然と謙虚になる)、②探究心、好奇心がある、③仕事に対するセンスと感動できる心、④自己研鑽、⑤自治体の職員として住民自治の立場に立つ、⑥地域をよく知る。(前掲『公立図書館の経営』)

(自動車図書館であれば、利用者の顔を浮かべて、積み込む本を工夫する)。

6. いい図書館を目指すには

・まず館長として専門的知識と能力を備える人材を据える、職員は館長しだい。前述の田原市立図書館長だった森下芳則氏は「自分は日野で砂川館長から、砂川館長はその前任の前川恒雄氏から、バトンを受け継ぐことができた」と語った。

・図書館が地域のかなめになることを自治体の首長や議員にも見せることが大切。鶴ヶ島市では地区の運動会ごとに幟を立てさせ、職員が利用登録を行って存在感をアピールした。

・図書館が地域に支えられる存在になる、とは、譬えると棒杭(ぼうっくい)の根元を住民により固めて支えてもらうということ。

7. ミニワークショップ(25分間)

・講演を聞いた後に、参加者が理解を深めるため、6グループに分かれて意見を述べ合い発表した。

8. 質疑応答

(質問) 自治体職員の専門性とジェネラリスト化の兼ね合いについて

(大澤講師<以下、敬称略>) 総務省のスペシャリストは育てない方針で入庁後4年間さまざまな部署に配属され、5年目にまた新しい部署に移るルールが導入されている。本来は「職務職階制」のもとで、同一職務の中でキャリアを踏んで専門性を養うのが望ましい。

(質問) 地方自治を育てるとは。

(大澤) 地域課題に応える、ということ。大泉図書館の場合も農耕中心地に宅地造成が進み、保健所の分室ができる段階で図書館構想が持ち上がった。

(質問) 図書館が主催する催し物のあり方について。

(大澤) 先につながる企画、なら歓迎できる。自分の経験でも1980年代に青少年コーナーを設けた際に、中学生のたまり場としての居場所づくりに配慮した、

(質問) 指定管理者制の導入で、職員の専門性の維持が難しくなるのでは。

(大澤) (司書過程受講の) 学生の就職実績を上げたい、という教育機関の意向と、専門職として責任を持って仕事をしたい、という学生のニーズとの兼ね合いが難しい。ワーキングプアを生むだけでは、という問題提起もある。なお23区で指定管理者制の導入が進んだのは導入が都区財政調整の算定基準上プラスにカウントされる事情が大きい。

(質問) 複合施設についてどう考えるか。

(大澤) 建物の管理の仕方次第と考える。最近開館した大和市のシリウスでは、有料スペースがかなりのスペースを占めているが、これでよいのか。少なくとも複合施設内の図書館スペースは図書館が管理し、公共施設として住民に知識を提供する機関として責任を果たす必要。

(質問) 新しい図書館の動向として、参考になる事例を紹介してほしい。

(大澤) 南相馬はぜひ見てほしい。飯能市の図書館は建物をうまく利用しているし、前述の小川町も面白い。

(寺田芳朗・寺田大塚小林計画同人代表) 小川町は当初、図書館員と向き合って設計を進めた。この点ではＰＦＩのように、相手をする自治体職員も設計部門、というのと異なる。ただその後下水道の問題から棚上げになり、蔵の工夫もしたのでこのままでよいのでは、という話さえ出ていた。

(質問) 図書資料をどう配置するか。

(大澤) 開架書棚の本質はブラウジング。本の方から引き寄せられる書棚かどうかは、職員が棚にきちんと「手を入れているか」どうかにかかっている。

ニュースNO.66 4～5ｐで掲載したものは校正前の原稿でした。謹んでお詫びします。